北支

現地編輯

THE NORTH CHINA



2^{2}

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可 昭和十五年一月十五日印刷納本 昭和十五年二月一日發行（每月一回一日發行）第九號



龍烟鐵鑛露天掘の一部

石景山製鐵所

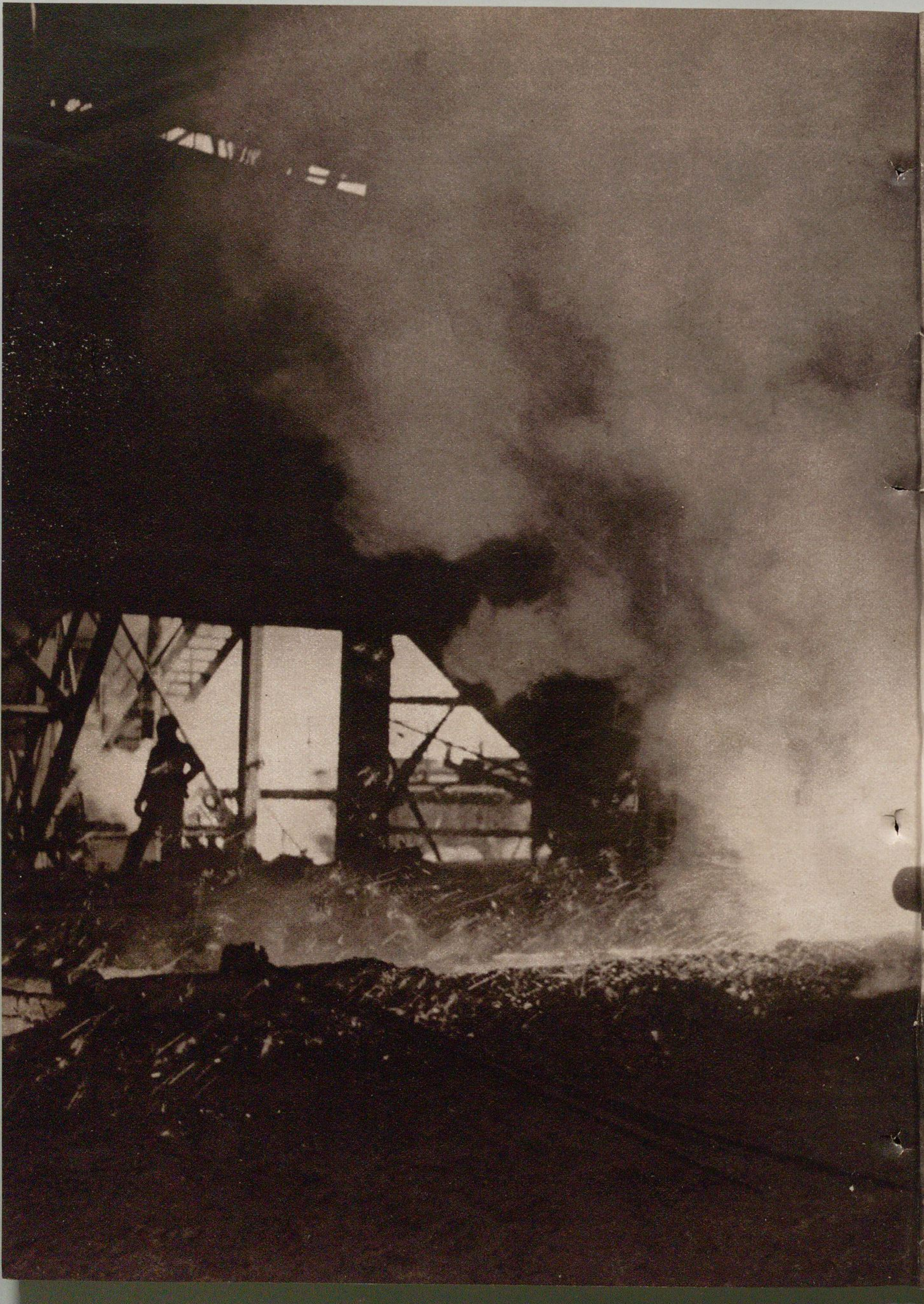
IRON FOUNDRY AT SHIH-CHING-SHAN, NEAR PEKING

北京の西直門驛から石炭で名高い門頭溝支線で西へ十九キロ、石景山驛の東南一キロほどに高い煙突から黒煙を吐いてゐるのが、いま花形の石景山製鐵所。製鐵所といへば直ぐ八幡を思ひ浮べるわれわれの第一印象には、これは餘りに賴りないものではある。低い山峯を背景にして、前は悠々たる永定河の流に臨み、北に近く西山、萬壽山、玉泉山を望む豐かな風光の中に在つて楊柳の疎林を通して見る工場は、熱鐵たぎる重工業の坩堝とは思へぬのびやかな雰圍氣につゝまれてゐる。しかしこれはいま北支蒙疆における唯一の近代的製鐵所でありこの事變によつて時代の脚光に浮び出た工場なのである。軍の保護管理の下に、興中公司が經營に當つてゐる。

日本の鐵飢饉は、石炭の不足と屑鐵輸入困難に拍車をかけられていよ〳〵深刻化し、滿洲の昭和製鋼所も全力を擧げてはゐるが銑鐵の不足はどうにも動きがつかないのである。だから、二百五十トン爐一基、日産百五十トンの小規模ながら、この工場も日滿支經濟ブロックの一環に結びついて、その役割に期待をかけられてゐるのである。わが國の國內銑鐵需要一千萬トンに達するといふ昭和二十年度に對應して、石景山でも四ケ年計畫、銑鐵三十萬トンを目指し、このため約二千萬圓の資金を投じて五百トン爐やコークス工場の新設計畫を進めてゐる。



熔鑛爐の開扉



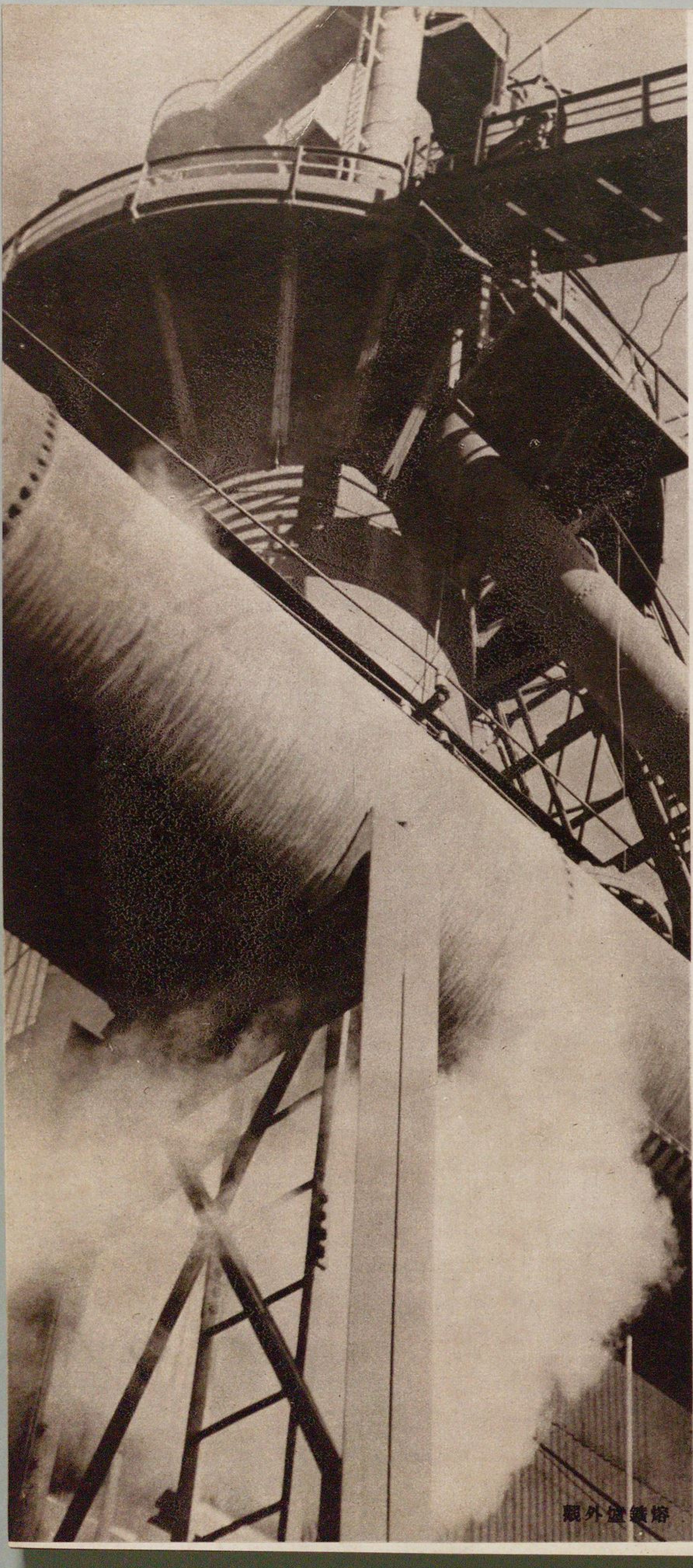


耐火煉瓦の溝を流れる熔



柄長鍰にて堰止め砂の鋳型に流し

石景山製鐵所



熔鑛爐外觀

もともと日本の銑鑛埋藏量は僅かに一億五千萬トンであつて、滿洲には十二億トンといはれるが純分は平均三五パーセントの貧鑛である。支那はまだ確かな統計はないが、有名な中支の大冶や蒙疆の龍烟など、極めて有望な鑛區が廣範圍に在り、石景山に原鑛石を送つてゐる龍烟鐵鑛の如き、純分五三パーセントといふ赤鐵鑛の大露頭を表してゐて埋藏一億トンは確實といはれてゐる。たゞ殘念なことは、資材不足のため輸送力が著しく制限されてゐることであつて、山には唸るほど富鑛が寢てゐても、これを運び出すことができず、またこれを處理すべき大工場を新設し得ない實狀である。やがて專用の運鑛線が八達嶺を越えて此處に延び、大熔鑛爐が建造されてもり〳〵火を吐き初めたならば、龍烟の無盡の大鐵鑛を控えてゐるだけに、その將來は刮目すべきものがあらう。――鐵がないから輪轉材料が造れぬ、貨車が無いから石炭が運べぬ。石炭が足らぬから鐵が造れぬ――といふどうどう巡りを繰返してゐる間は、石景山も已むなく現狀維持をつゞけねばならないし、北支の産業開發も本格的にはならないだらう

×

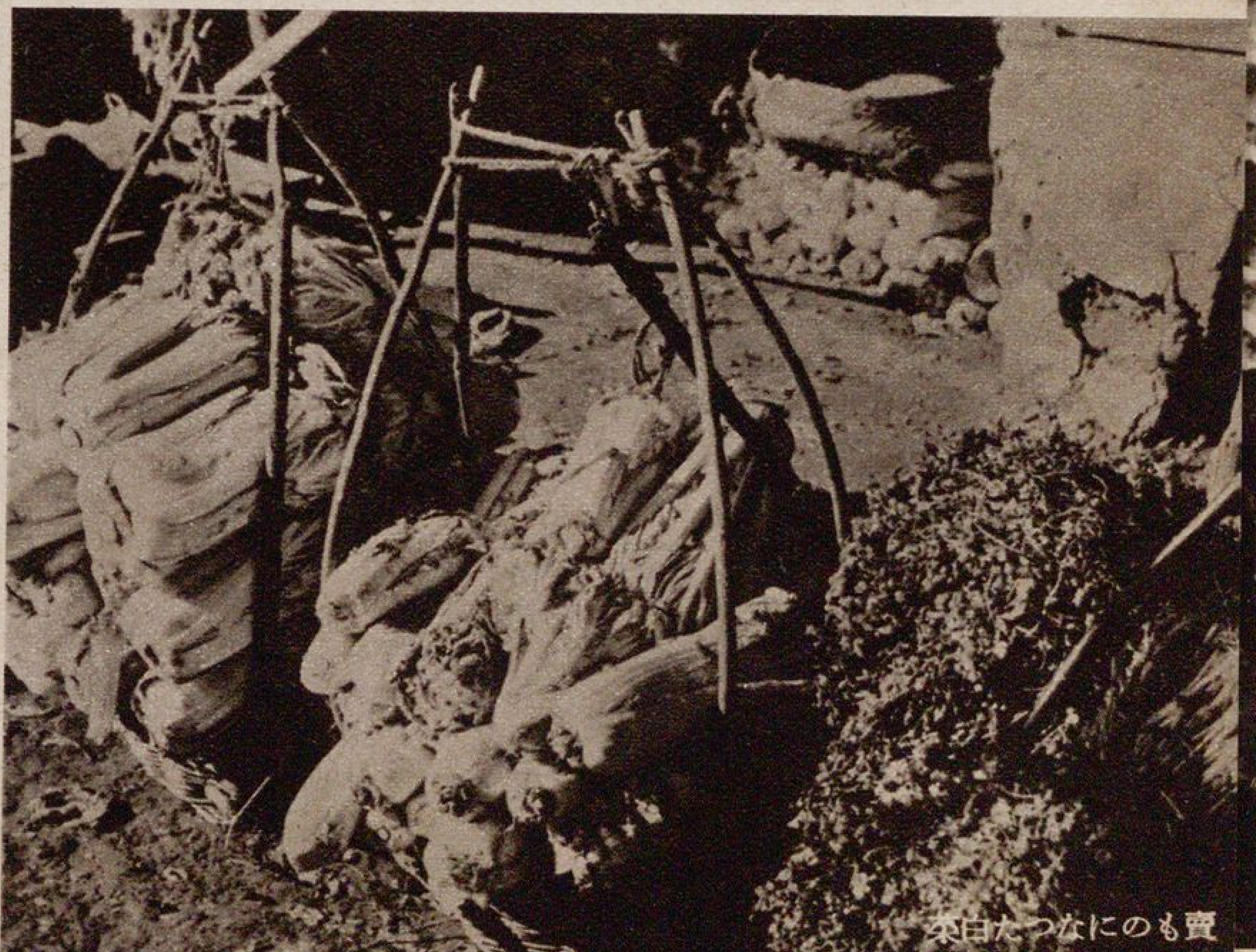
石景山製鐵所は、二十年前の民國八年に時の徐世昌總統の北京政府によつて創設された龍烟公司の煉鐵工場として颯爽と世に出たのであるが、間もなく安直、奉直の兩戰亂の兵禍に遭つて工事を妨げられ、加へて歐洲大戰後の鐵價暴落に見舞はれて資金難に陥り、中途にして放置されたのであつた。その後も第二次奉直戰爭や中國革命軍の北伐など國内政情の變轉に禍され、ほゞ基礎施設を完成しながら一度も火を入れず、黄塵の中に鋼鐵の巨體を横へること十數年に及んだのである。事變後興中公司は軍の依囑により、日鐵の技術的援助によつて、赤錆び果てた施設に手を加へ、僅か七ケ月にしてこれを完成して、宛も北支産業に黎明を齎すが如く晴れやかに火入式を行つたものである。



白菜畑の一部



大きな白菜

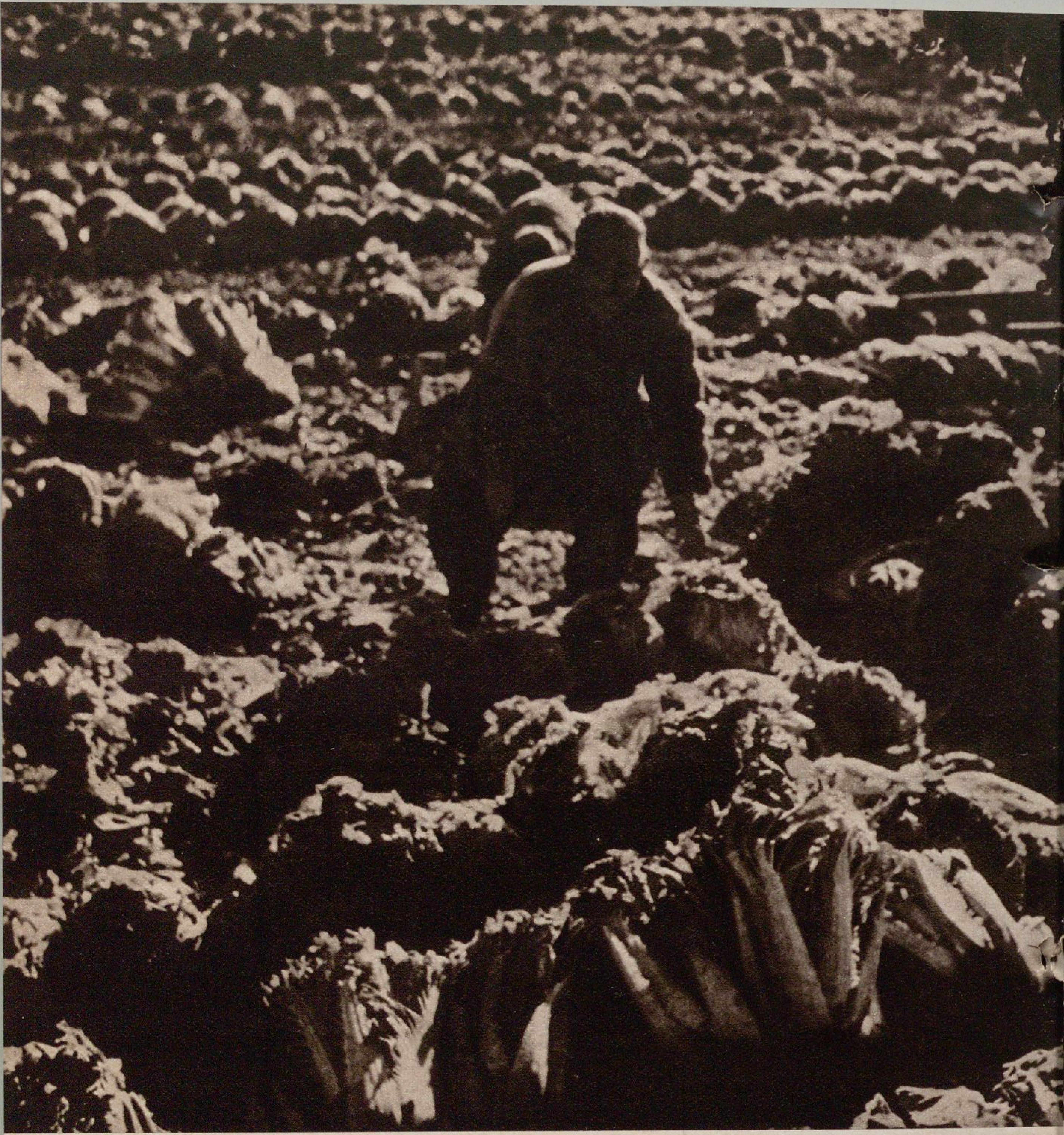


賣ものになつた白菜

白菜

CHINESE CABBAGE

神代以來「菜つ葉は青いもの」だつた



日本に、明治の末期、清らかな白い菜

つ葉」白菜が初めて姿を現はした。爾來四十年、味と香りと軟かさがすつかり受けて津々浦々白菜の採れないところはなくなつた。ところがその原産地が北支であることを知る人は少ない。北支では古くから栽培されてゐて、量から言つても、消費から觀ても「野菜の王様」なのである。河北の徐水（保定の北方）、山東の龍口、芝罘、青島附近と泰安（有名な泰山のあるところ）が名産地として名高い

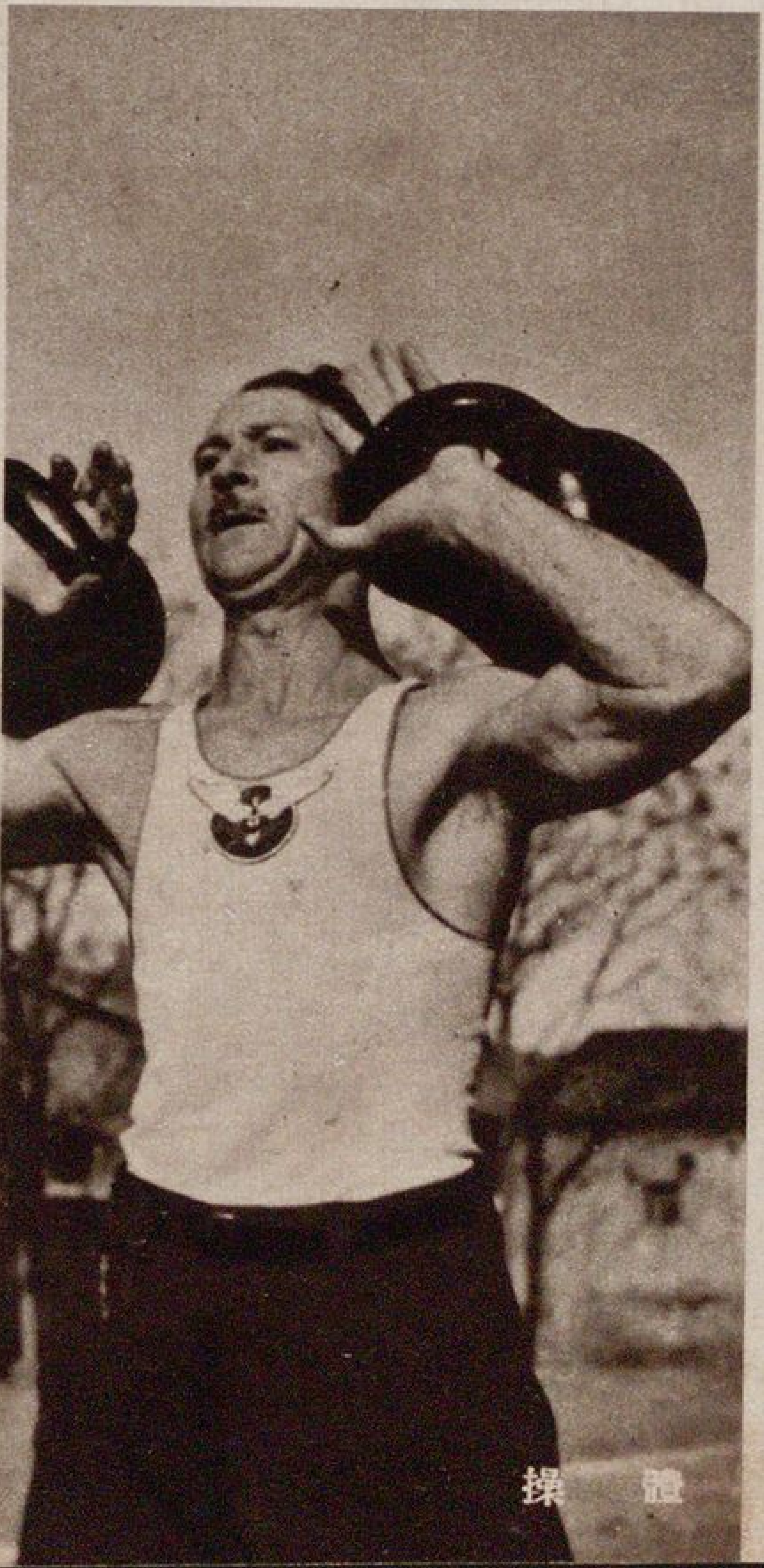
徐水の白菜は北清事變後保定に入つた一邦人によつてその眞價を識られ、日本内地に種子が送られたもので、日本白菜の本家である。清朝帝室の御用白菜はこゝのもの。今でも目のとゞく限り白菜畑が續いてゐる。芝罘一帶の白菜は大連、旅順、營口に輸出されて滿洲人士のおなじみである。毎年秋から冬にかけて渤海を渡るジャンクといふジャンクには白菜が滿載されてゐるのである。泰安の白菜も亦有名で、同地の名物三白の一に數へられてゐる。一に白菜、二に豆腐、三に白魚と名物の首位に謳はれるだけ、その軟かさは名高い。以上の名産地のほか、北支各地に作られてゐる。北京の野菜市などに朝早くから一輪車に積んで城門をくゞつて運ばれる量もたいしたもの、このごろは「お漬物好きの日本人」に大持てである。盛りには一斤二錢といふ嘘のやうな値段、日本人には一輪車一車（ひとくるま）いくら……でどん／＼賣れてゆく。



擔銃教練



號令練習



體操



ッパ手

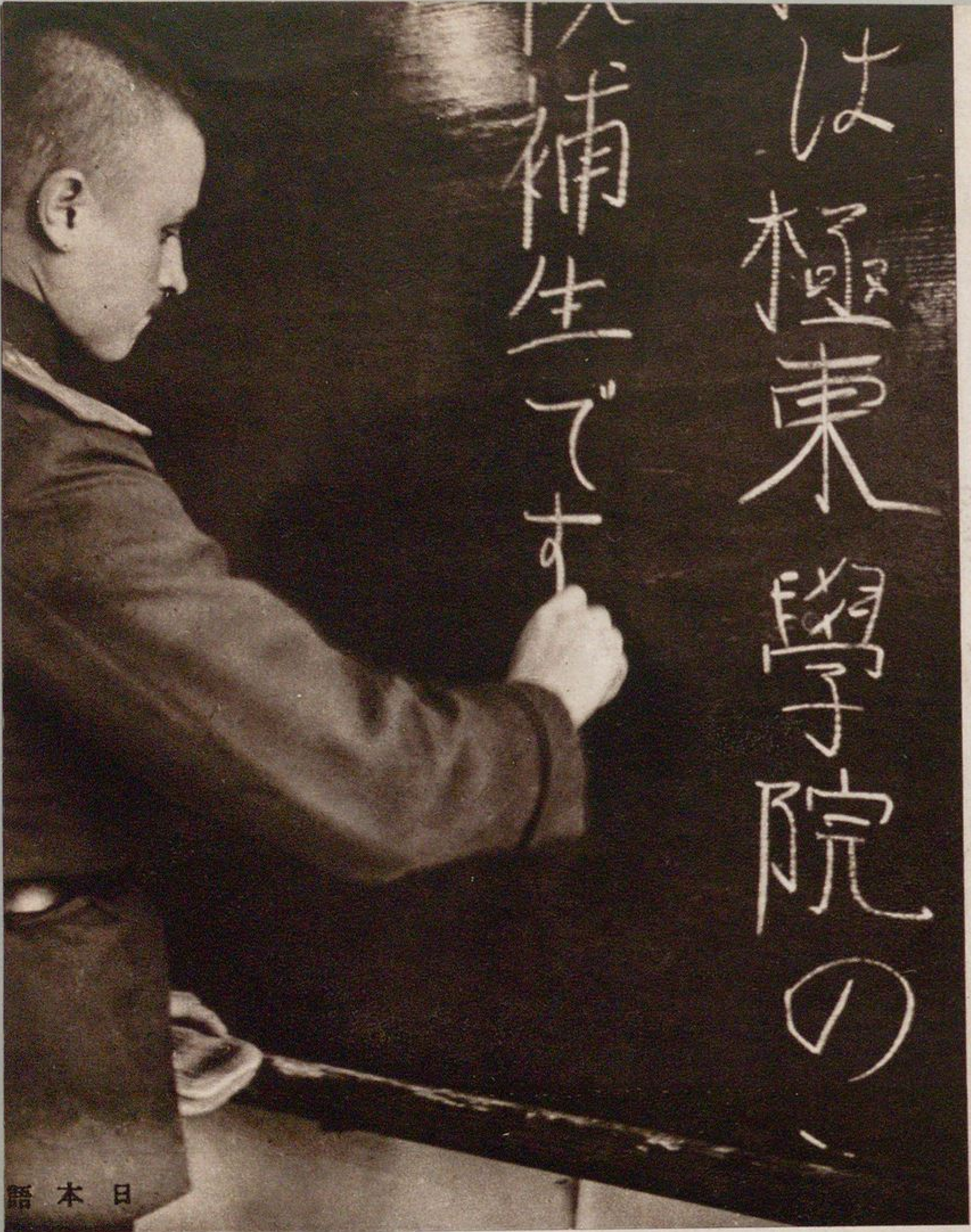
極東學院

A WHITE RUSSIAN MILITARY COLLEGE IN TIENTSIN

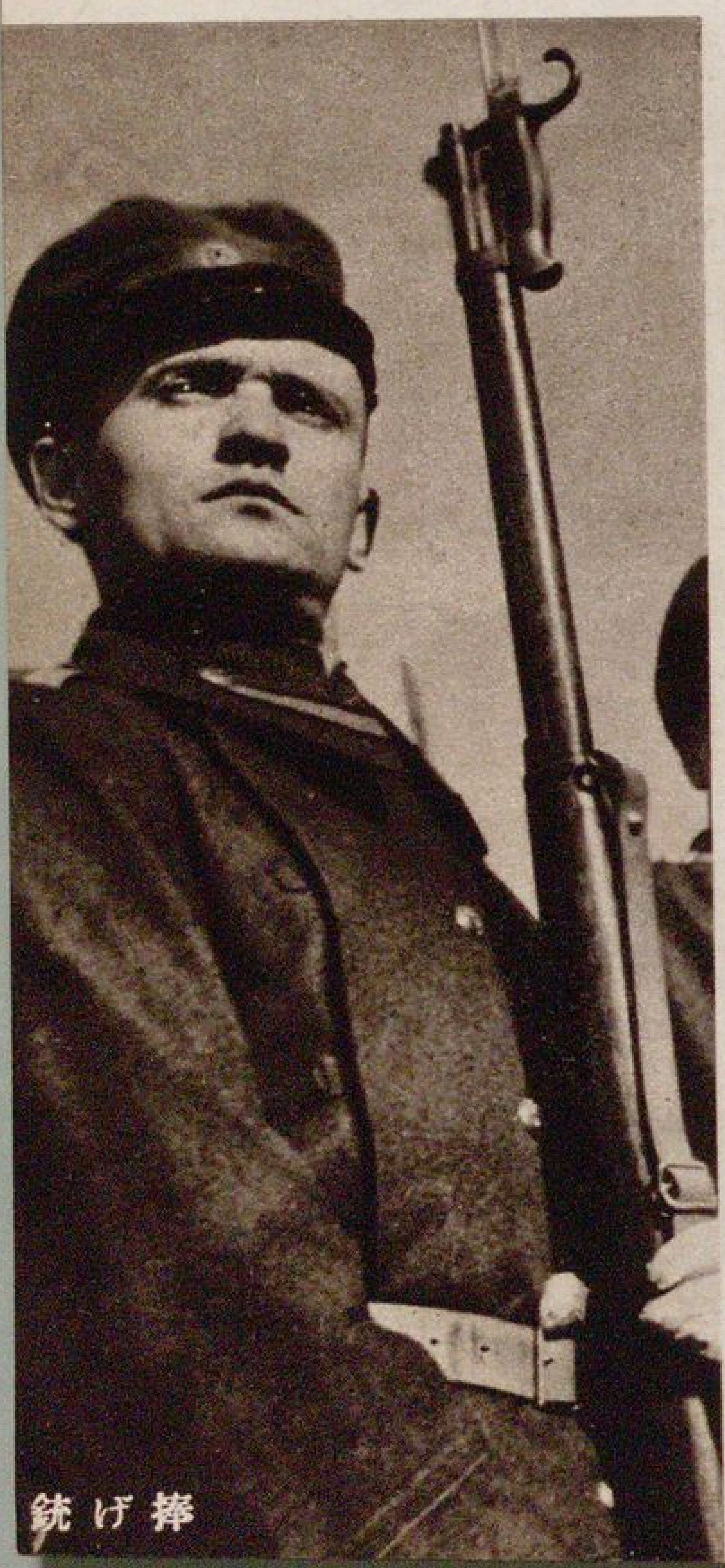
祖國を追はれた亡命の民族白系露人の子弟教育のため、天津特三區に白露軍官學校とも稱す可き極東學院が設置されてゐる。昨年八月一日に創立されたばかりで、校舍開設に就いては次のやうな面白いエピソードを持つてゐる。現在北支には一萬に近い白系露人が在り、そのうち三千名が天津に居住してゐるが、是等は相互に連携して白系露人中央防共委員會を結成、飽迄も祖國の敵赤色政府への抗爭を續けようとしてゐる折柄、偶然にも日本軍による天津英佛租界隔絕を見るに至り、これを機とした彼等は一齊に起つて特三區舊ソ聯領事館跡を占領し、屋上に飜つてゐた赤旗を引きずり下すや、直ちに舊帝政時代の三色旗を掲げて、此處を白露軍官學校すなはち極東學院として利用することになつたのである

校長は、舊帝政ロシヤ時代の陸軍少將W・エグラフ氏、副校長兼顧問が望月磯之助氏、他に教官として日本人一名と白系露人三名がある

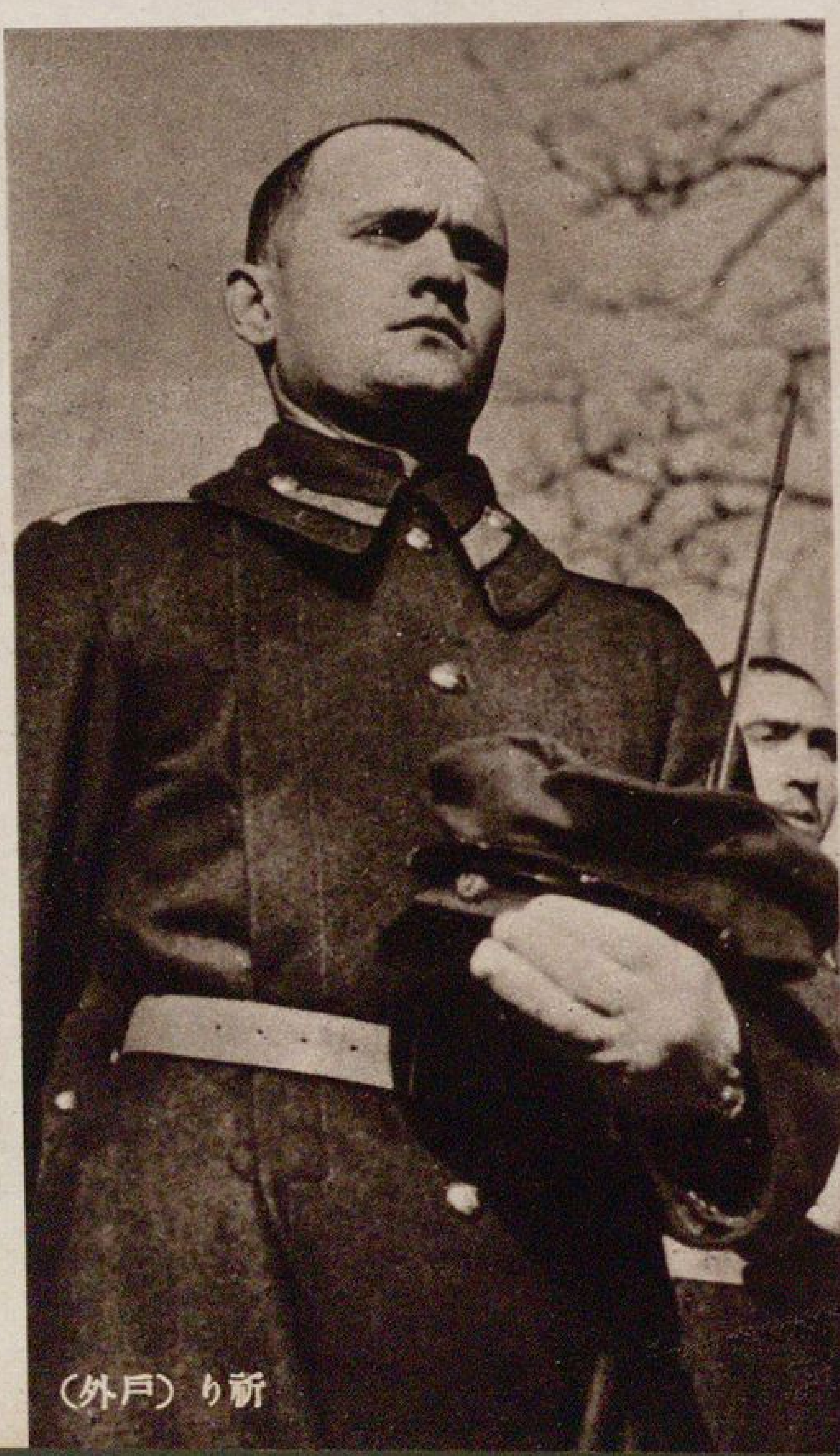
修養年限は一ケ年で生徒は卒業と同時



日本語



捧げ銃



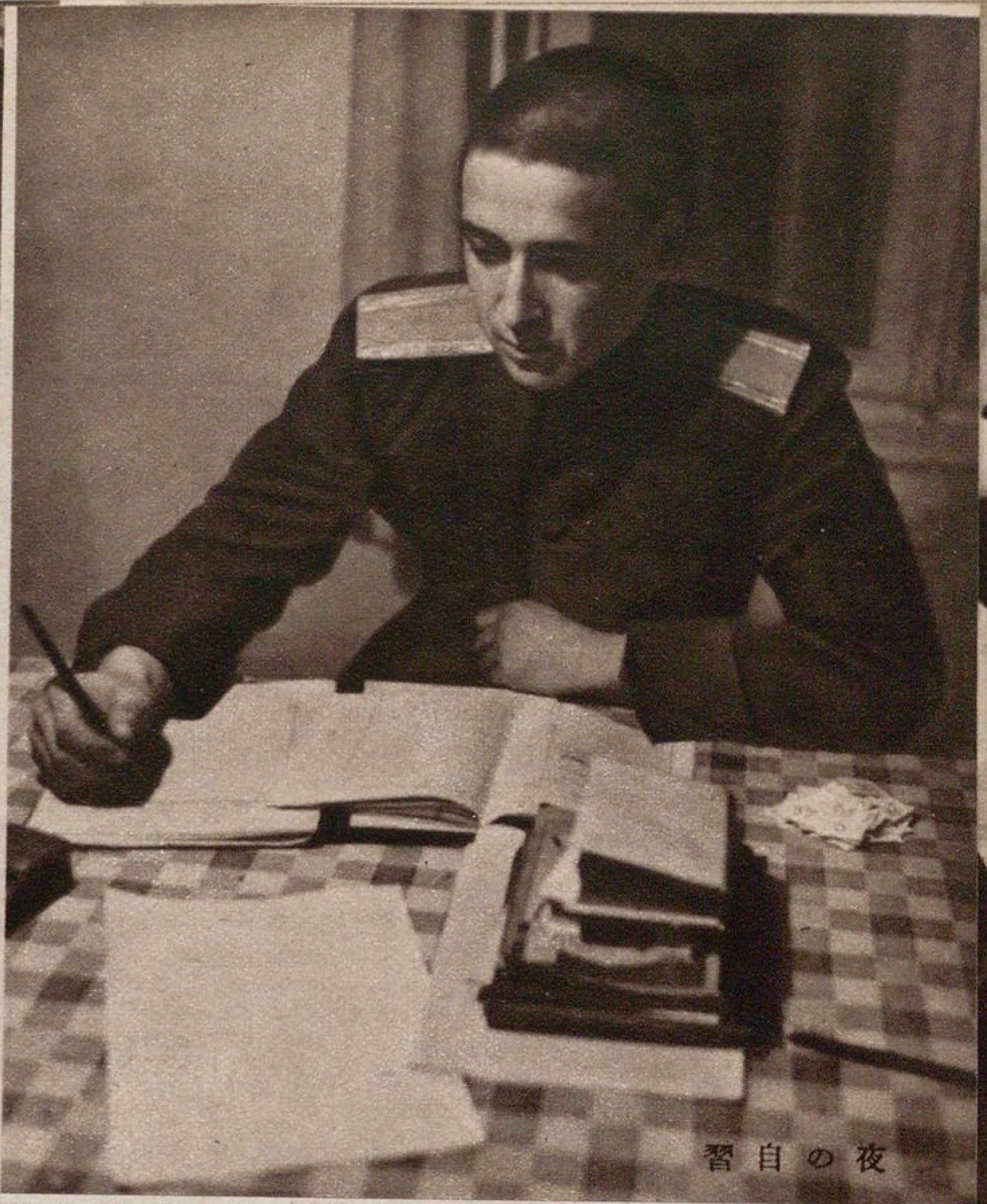
祈り（戸外）



祈り（食事の前後）



理髪



夜の自習



日曜外

極東學院

に白露人義勇軍少尉に任命され、尠くとも三ケ年は北支に居住せねばならぬ義務を持つてゐる。日課は午前七時起床、八時まで校内の清掃をなし朝食を終へて、九時から學課に移る。學課は教練、體操、日本語、支那語、歴史、地理、政治、思想、工業等で一日八時間授業となつてゐる。教練は日本人と白系露人の指導官に依つて實施され一週間十二時間、日本語は一週間に二十四時間づゝで、僅か三ケ月足らずで一かどの日本語通になるものもある。午後四時十分からの放課後には精神訓育勞働訓練等の課外教育を實施し、日本精神や防共思想の强調徹底に努める。就寢時間は十時で被服その他全部當局から支給され、更に月額五圓の小遣迄給與される。現在の生徒數は十九名でいづれも十八、九歳の防共魂に凝り固まつた潑剌たる靑年達ばかりである


ツアールの像


將棋



（青）州城外

益都

I-TU, SHANTUNG

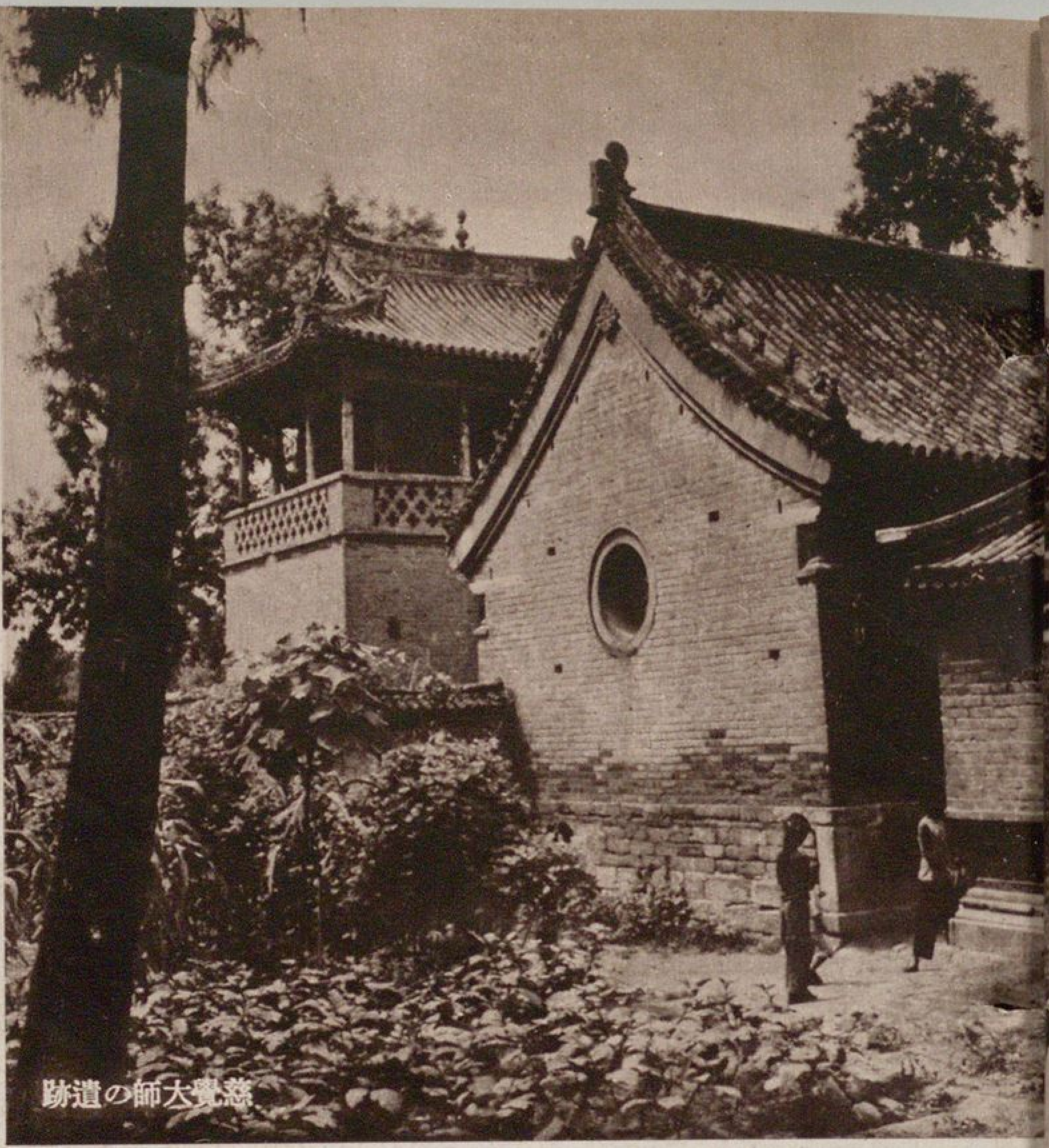
益都は舊名を青州と稱し膠濟線沿線の主要都市で、青島と濟南のほゞ中間に當つてゐる。人口約四萬。沿線屈指の物資集散地として繭二百萬斤、唐辛子二百萬斤、胡桃五十萬斤、果實類三十萬貫（何れも年額）が出廻るほか、絹紬の年產二十萬疋に達する

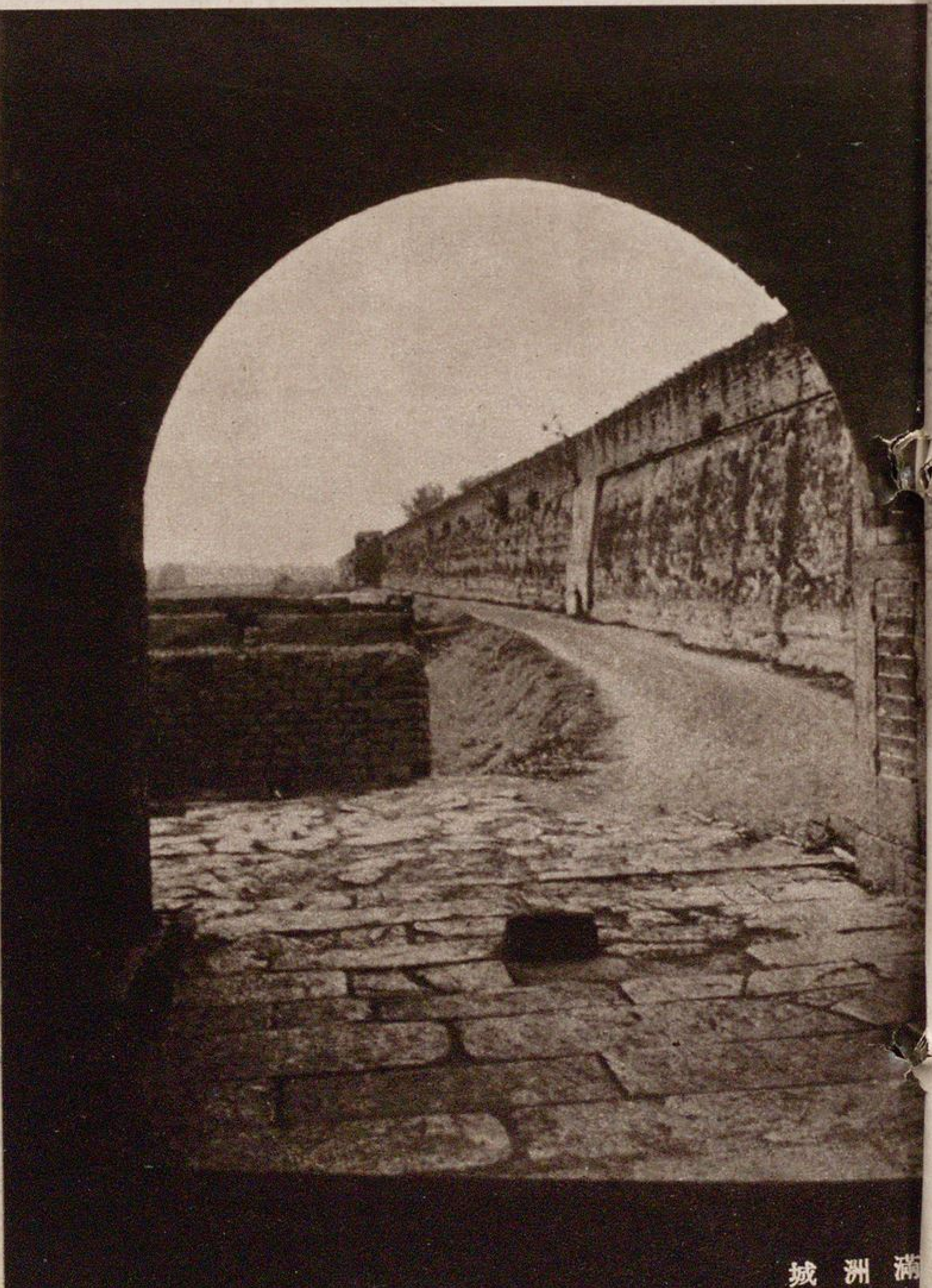
古來歷史的に有名な地で、古くは禹貢九州の一であつた。夏時代の青州は山東の大部と遼東半島をも含んでゐたと言はれる。近世になつて明の時代に山東の省城となつたが、淸以後省城は濟南に移つて現代に及んでゐる。城內外には「雲門山」をはじめ六朝以來の古蹟が多い。

「青州城」は北齊（六朝）時代の建造（益都縣の名が出たのは六朝以後である）城壁の高さ三丈五尺、周圍二里六町。「滿洲城」は青州城の北方二十數町にある。淸朝が天下を統一した時、明朝遺臣に對する威壓策として滿洲八旗軍を屯田兵として駐屯せしめた城である。後、こゝの八旗軍は長髮賊の亂に參加したほか山東治安の重鎭として勢威を振つたが淸朝が滅亡してからは衣食の途を絕たれ、最近は山東苦力として祖先の地滿洲に出稼ぐ者が多い。

青州橋畔の文昌宮は日本の慈覺大師の修業の地とされてゐる


孔子廟内の六朝部


慈覺大師の遺跡


滿洲城

元宵節

LANTERN FESTIVAL



麥芽燈の人形

支那に住んで元宵節と聞いたらまづ樂しいうきうきした聯想が浮ぶ。わけて北京の元宵節は華やかである。過年日(クオニエヌリー)——正月五日迄が一家團欒儀禮の日としたら明けて六日から十五日迄は會年茶(ホイニエヌチア)だ。親戚朋友相招んでカルタ麻雀、酒肴、なにさまのんびりした正月氣分を樂しむのである。さてこの十三日から十七日迄を燈節(トンチエ)と謂つて愈々正月最後の遊鬧だ。殊に十五日は昔の所謂上元節即ち元宵節で中心日に當るので、燥鬧振りも一方でない。この夜各家庭では祭壇に元宵團子(日本の白玉團子のやうなもので、中に果物と砂糖を煮崩した餡)を供へ、又家族打揃うて喰べる。盛に爆竹を鳴らす。北海や中央公園では打上花火をあげて景氣をつける。特に我々が美しく感ずるのは中央公園に陳列される氷燈(氷作りの燈籠)と麥芽燈(麥の芽で菊人形のやうに作つて灯を入れる)である

恰かも滿月の明るみに浮び上る人形達は夢幻のやう。さて又街々に流れ出す夜の人波のあちこちに瞬く畫燈(ホワトン)の華麗さ、既に昔北京の豪華なしと云うてもやはり他處では見られぬものだ。この燈籠祭りのうちで野趣あるものは花燈の數々であらう。これは年末から東安市場、前門外、西單大街あたりで賣出す飾燈籠で、名もない職人が作る紙張子、金魚や蟹、猿、鷄その他いろいろある。それを春聯を貼りめぐらした家の軒先にかけ連ねた趣はなかなかよい

また元宵節が來る!!

☆　☆

なほ元宵節は日本なら地獄の蓋が開く日とするが支那では天上の神々が下界して淡婆の賑ひを見物なさると謂ふ。神々といふのは亡靈のことで、燈節は即ち亡靈慰安のお祭である

そんなお題目は別としてもお祭騷ぎに興ずる人情は同じことだ。萬事舊曆で行ふ北京の風習にはやはり捨てがたいものがある。



元宵屋



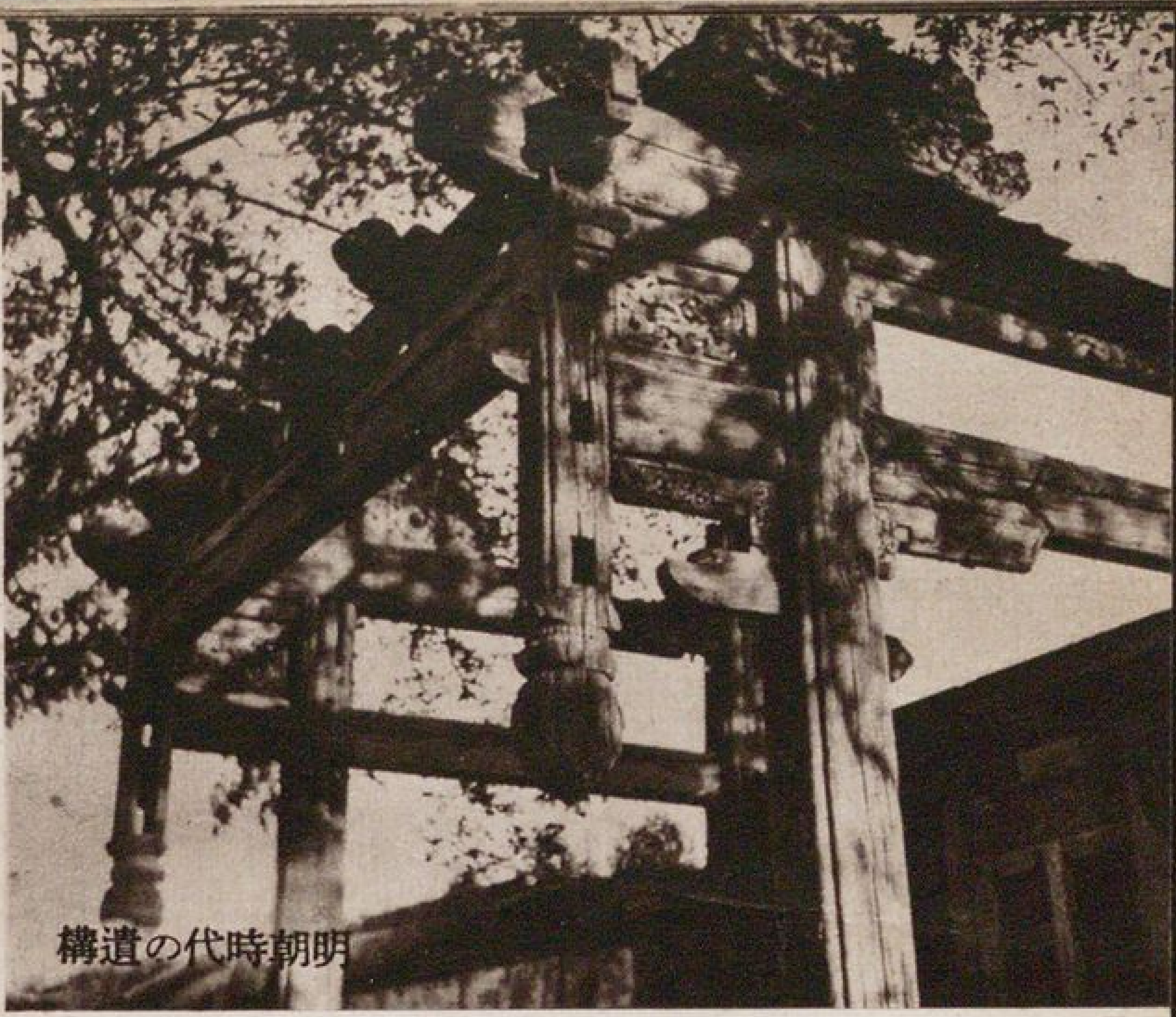
燈節の行列



魚燈



四天王大塑像（清初）



明朝時代の遺構

護國寺

HU-KUO-SSU TEMPLE, PEKING

護國寺は北京西城にあり、元の丞相托克托の住宅を改造した元代開基の喇嘛寺で、東城隆福寺に在る隆福寺と共に北京の雙廟の一つになつてゐる。清の康熙六十一年重修されたけれども、爾來風霜の蝕むに任せてあつたためその廢頽甚しく、本殿の簷は傾き、屋根は崩れ、ペン〱草や、境内には名も知らぬ雜草が蓬々と伸びるにまかせてゐる。とは云へ明代の四天王の大塑像や元代の石獅子大きな鐵の梵鐘などが殘つてゐて往時の面影をしのばしめる。又この寺は隆福寺と共に廟市を以て知られた處で毎月七、八の日に緣日が開かれ、附近一帶頗る殷賑を極める。





鐵の梵鐘（明朝）

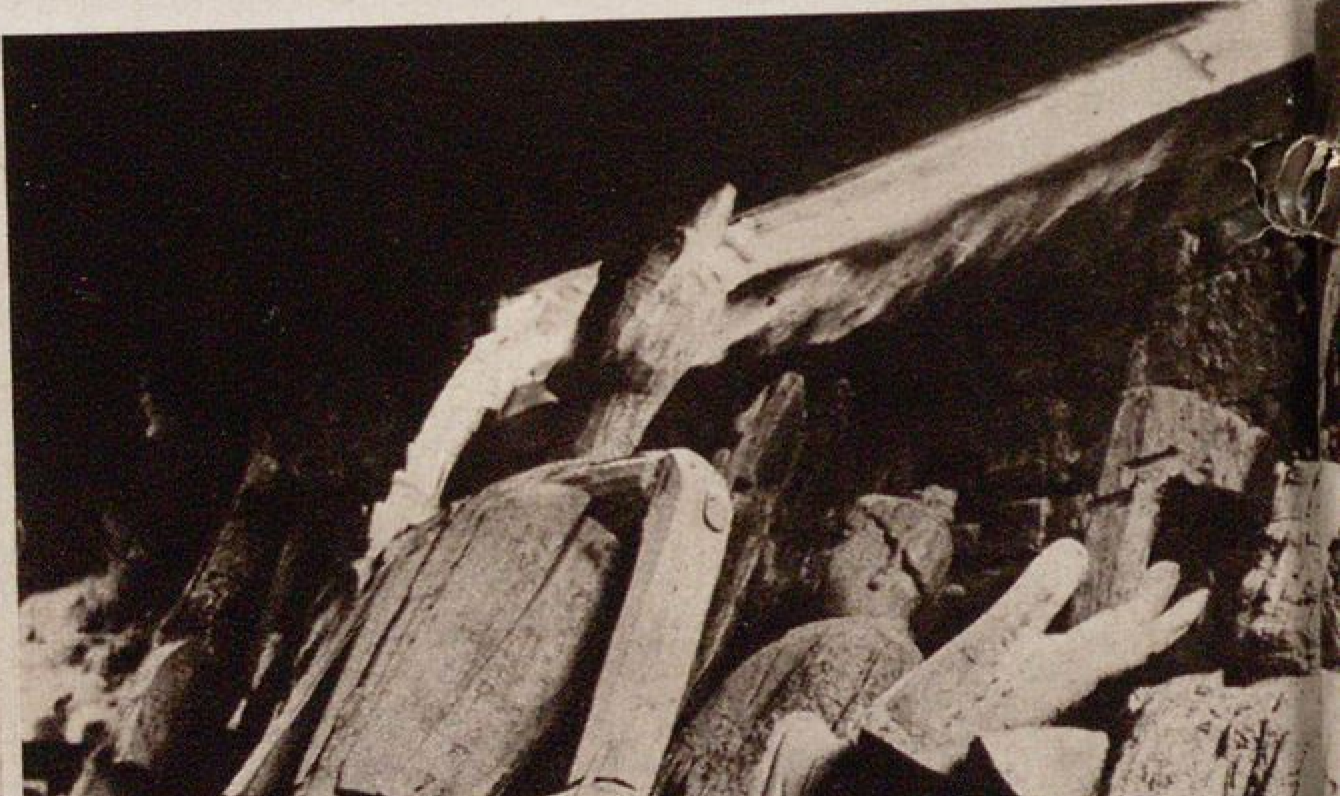


雜草茂る堂屋の荒廢


元時代の石の獅子




大理石の須彌壇（明朝）


寺隅の廢佛群（元明）



圓明園

RUINS OF YUEN-MING-YUEN
(The Old Summer Palace), PEKING

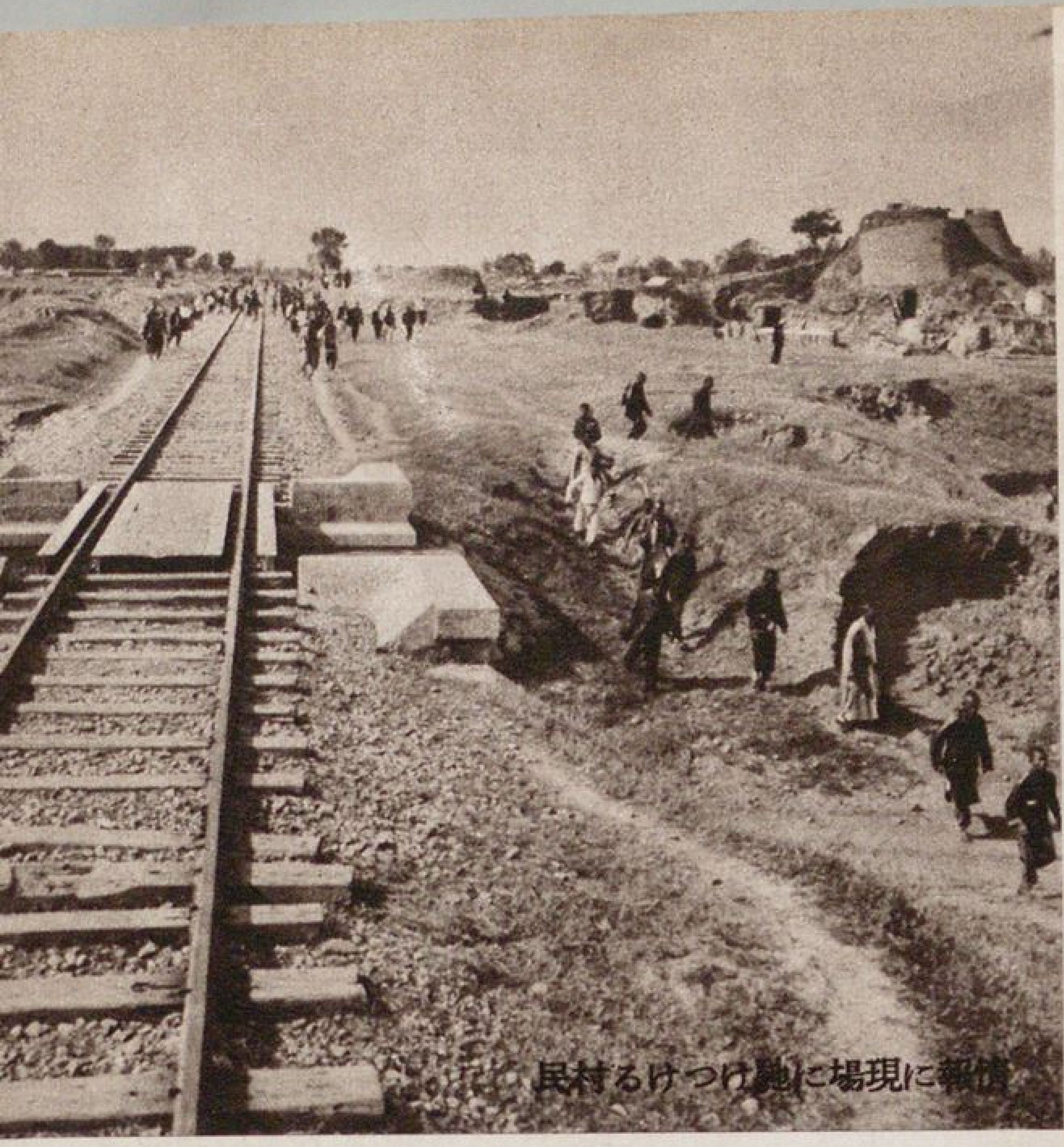
今はたゞ廣大なる廢墟としてのみ知られる圓明園は北京の西北約十二粁、萬壽山の北隣りに位し、康熙四八年清の聖祖が、その世嗣雍正帝の別宮として賜つたものである。園は圓明園、長春園、萬春園の三つから成り東西二五〇〇米、南北二〇〇〇米、周圍七十餘支里に達し、そのかみの規模雄大を謳はれた秦の阿房宮や宋の艮嶽、今に殘る北京紫禁城の壯麗に優ること數等であつたといはれてゐる。圓明園の名稱は圓明の徳を體得せよと謂ふ意味から生れ、清朝に於ては約百七十五年の間ここを園居聽政の所としてゐた。園內には支那に於ける歐式建築の草分と謂はれる伊太利人郎世寧と蔣友仁とがベルサイユの宮殿に倣へて造つたバロック式建築の遠瀛觀や海晏堂をはじめ月地雲居、北遠山村等景勝地四十を有し、是を俗に圓明園四十景と稱し、いづれも西湖や江南の絶景を摸して造られたもので、奇石怪巖青松紅花四季とりどり、の閑雅な眺めは洵に眼を奪ふばかり、わけて月清き園庭池畔を逍遥する三千の宮女は、天女の如き美觀を呈してゐたと傳へられてゐる。しかし天地無常のことはり、さしも宏壯を誇つた圓明園も光緒二十六年拳匪の亂に於て、英佛軍の手に蹂躙燒却されて以來、今は空しく一廢墟と化し去り、僅かに荒草雜々たる間を彩る朱綠の瓦礫に、その名殘を止むるのみである。



圓明園廢墟



匪賊襲撃を急報す



情報に現場に馳けつける村民

愛護村動員演習

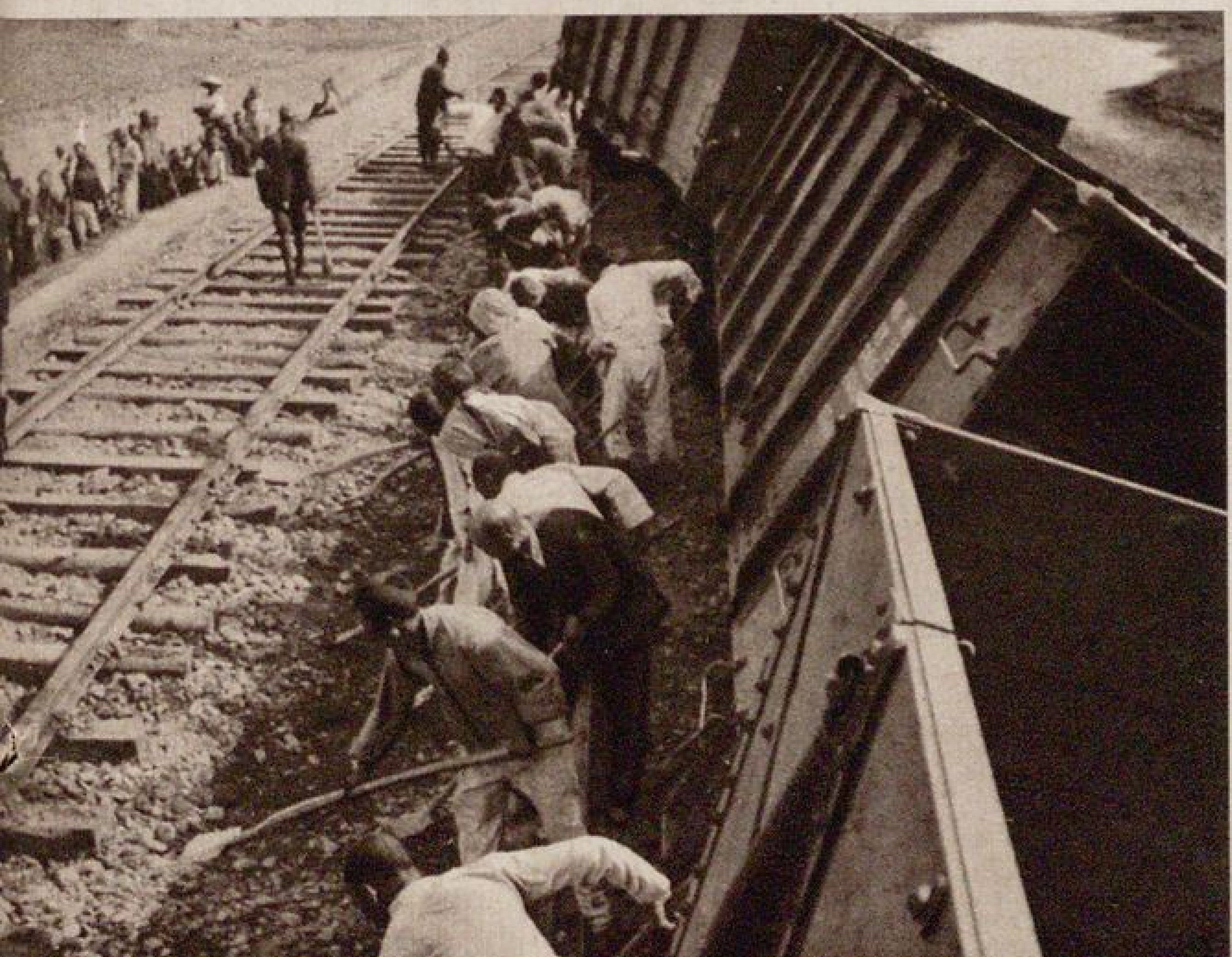
SHAM FIGHT OF RAILWAY PROTECTING BODY

匪賊來襲！鐵道破壞！！

砂煙を蹴立てゝ一人の村民が警務段本部に報せてきました。それッといふので本部では直に警務段員や愛護村民。愛路少年隊の非常召集を行ひ斥候を出して匪情を探らせ、忽ち線路監視巡察網を完成させる事になりました。然し時すでに遲く線路を破壞し列車を顚覆させた匪賊は一散に逃げ去つて行きます。追擊！警務段員と共に驀らに駈け出して行くのは警備犬です。空には傳書鳩も參加してをります。そこへ皇軍勇士が救援列車で颯爽と乘込んできました。これには流石の匪賊も苦もなく擊破されてしまひました。然し息つぐ遑もなく今度は破壞個所の復舊作業に移ります。婦女隊は炊出しに男は土砂運びに顚覆列車も被害線路も忽ち舊態に復しました。やがて日支兩國の國旗が揭揚され、嚠喨たる喇叭の音に連れて警務段員と愛路少年隊との分列式が擧行されます。萬歲！どッとあがる凱歌は民路合作の力強い叫です。それから一同に對して茶菓の接待があり、扶輪學校生徒の新民體操や愛路作業競爭などの餘興に移ります。「一村愛路、萬民享福」これが愛護村演習を通じて民衆の前に如實に展開されるのであります。



到着した救援隊



假想破壞箇處の復舊演習



鐵路を守備する警務段員と警備犬



襲匪情報連絡圖解を見る

胡琴

HU-CHIN, Inost Popular Chinese Musical Instrument

支那の樂器で一番民衆的なのは胡琴卽ち胡弓でせう。支那芝居が廣く普及してゐるのと同様に、芝居につきもの丶胡弓も行渡つてゐるのです。西洋人は日本人の尺八に驚くさうですが、私等はたつた二絃の胡弓の微妙さに驚きます。總體に支那の音樂には何か歴史の陰影を思はすやうな哀切な調が多い、胡弓はそれらを最も端的に代表するやうな氣がします。尤も胡の字からして支那傳來のものではなく、もと北蕃からもたらされたと謂ひますが。

さてこの胡弓はどんな風にして作られるか、北京打磨廠にある樂器屋で寫眞を撮つてみました（材料のうち弓と胴の竹、蛇の皮等は南支那から來る）。案外簡單なものですが、胡弓にもピンからキリ迄あるわけで、一提一圓、一圓五十錢から、百圓、二百圓と云ふのも珍らしくありません。



胡琴彈きと唄うたひ



柚子を削る



弓子に馬尾を張る



胡琴と弓子



筒子に蛇皮を張る



竹の筒子を作る



驢馬に乘つて

白雲觀九燕節

城壁をめぐる池塘の氷も解け、風も光も春を孕む陰暦正月、北京の城內や近郊は何處を歩いても賑やかな廟會である。いかにも天地ともに春立つとの感が深く、中でも西便門外の白雲觀のお祭は、古い都にふさはしい匂ひと綾を傳へてゐる。灰色の巨大な城壁を背景にして、紺の晴着に紅い花簪の姑娘たちが相乘りの驢馬に搖られてやつてくる。大八車に一家眷族をのせた百姓、自動車で乘りつける物持ち、洋車のサラリーマンなど、こゝは都鄙貧富をつきまぜて頌春一色。高粱細工の風車がカラ〳〵と澄んだ音をたてゝ五彩の虹を空に描いてゐる



ON THE BACK OF DONKEY, On the Road to Pai-Yun-Kuan

白雲觀の九

L OF PAI-YUN-KUAN, PEKING

乾隆御筆の「洞天勝地」とある古びた牌樓をくゞり第二門を抜け、人だかりを分けて石橋の下をのぞくと、泥細工のやうに默然と靜坐した道士がゐる。その前に直徑二尺ほどの穴開き錢の形をしたのが下つてゐて、その中心に鈴がついてゐる。赤錢を投げつけてチーンと音がすれば緣起がいゝのだといふ。なるほど拔目のない賽錢かせぎだ。地面一杯銅貨がばら撒かれてゐる。新來の日本人など面白がつて小錢をすつ

竝べて御座る

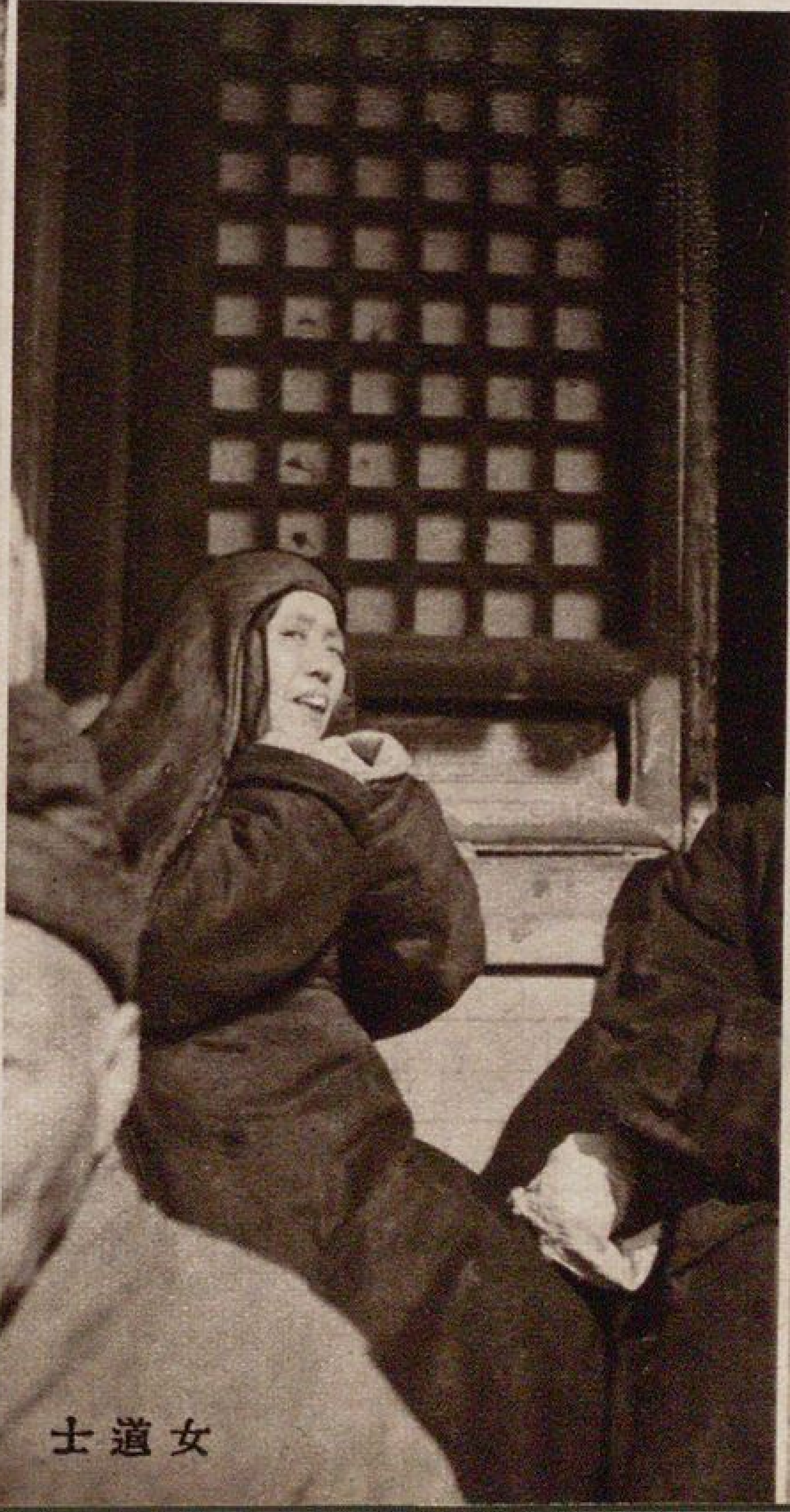
この道觀は北方道教を代表する全眞教の總本山として日本にも有名で、古い歷史をもつてゐる。唐の天長觀の故址であり、金時代の重修を經て元代になると、世祖の帝師であつた長春眞人邱處機といふのが此處に居て、國政の樞機にも加つてゐたといはれる。その後白雲觀と改稱され明淸二代の重修を經て今日に及び、今も四御殿の樓上の三淸閣には貴重な道藏が收めてある



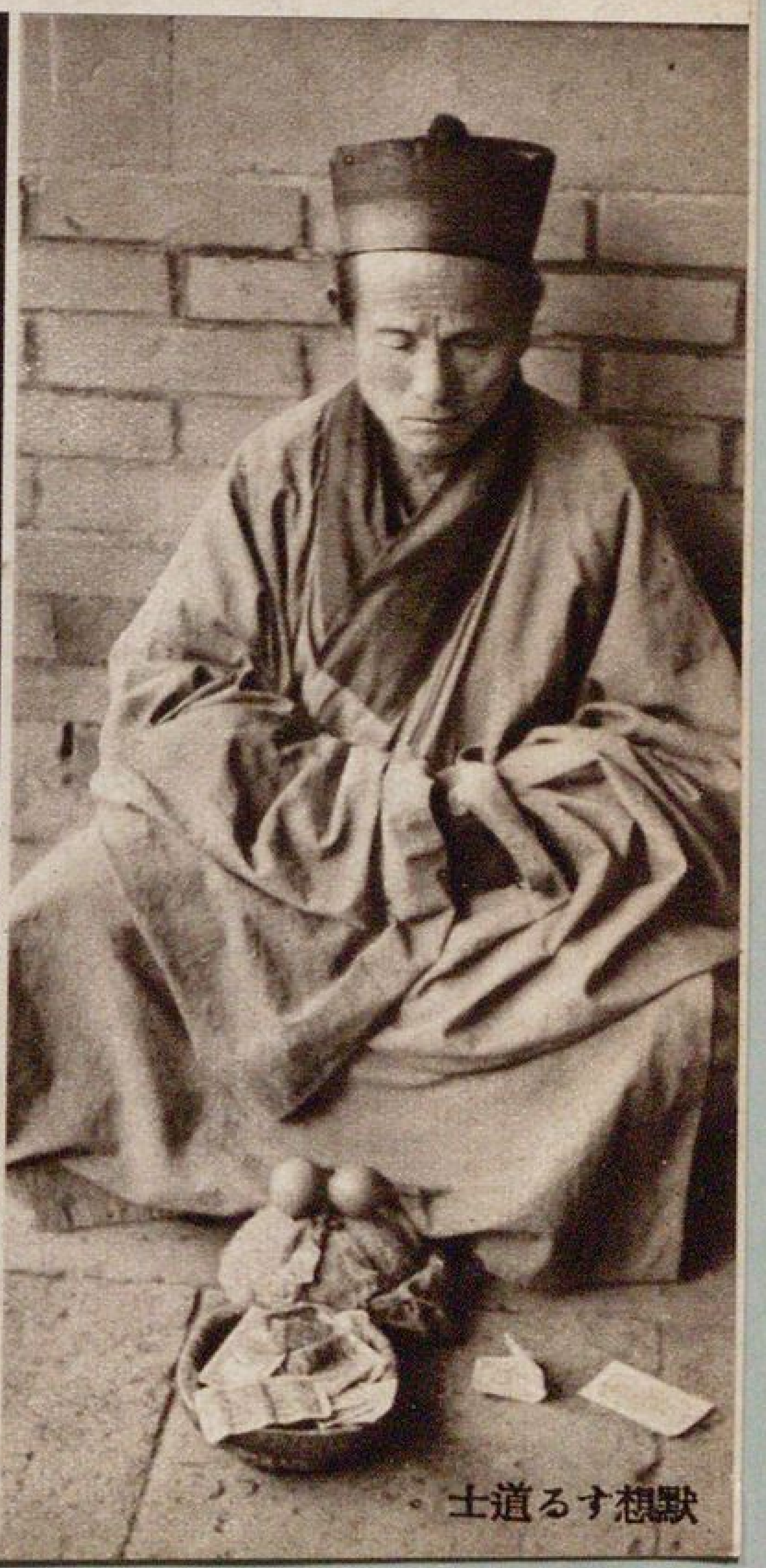
打金錢眼



白雲觀前門に押寄せる參詣人



女道士



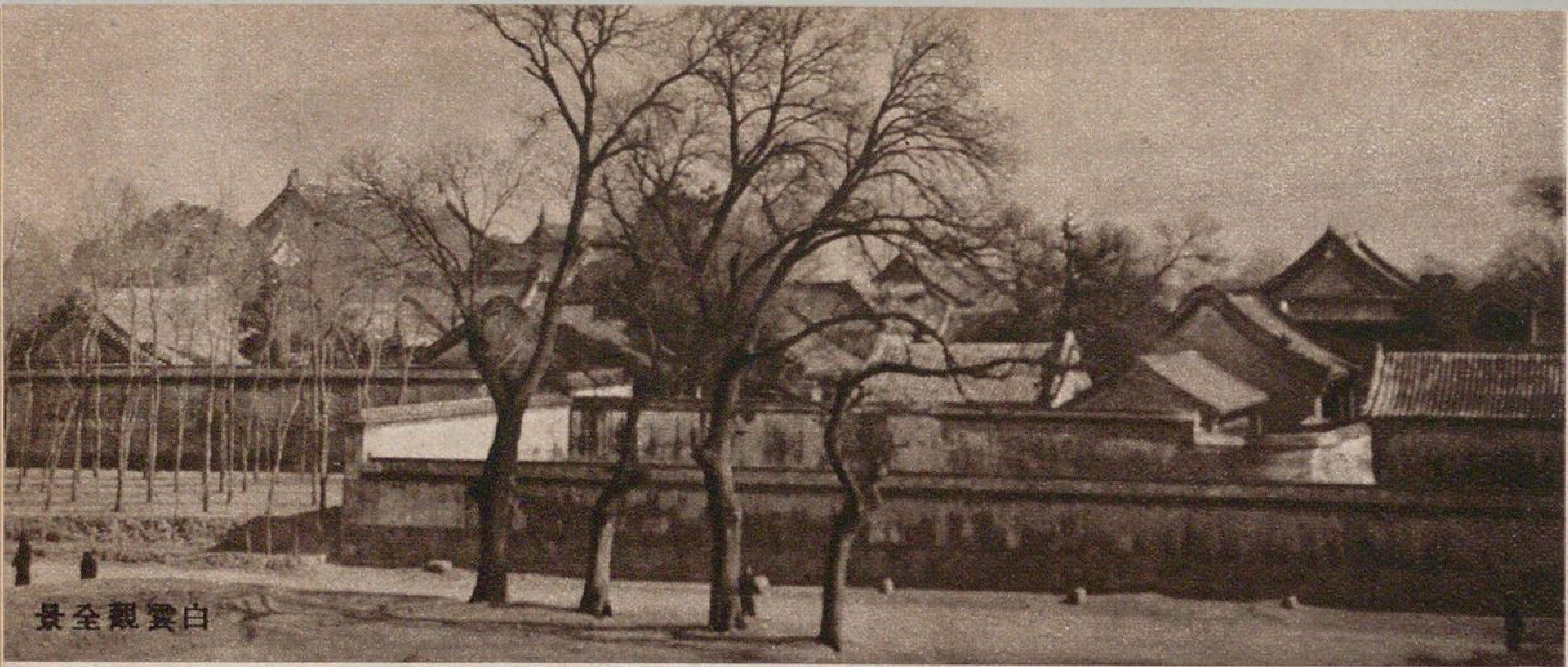
默想する道士

燕節

TAO FE

本殿兩側に甍を連ねた堂宇はどれも濛々たる香煙に包まれ、善男善女の願ひごとを聞くのに大繁昌である　正に神佛の雜貨店で、人事百般いかなる注文でも引受けてくれる諸々の神佛が軒を

廟されるが、特に十八日の順星日、天の神仙もこの夜降臨するといふ十八日の會神仙、十九日を燕九節といつて格別の賑ひを呈する


白雲觀全景


白雲觀堂內



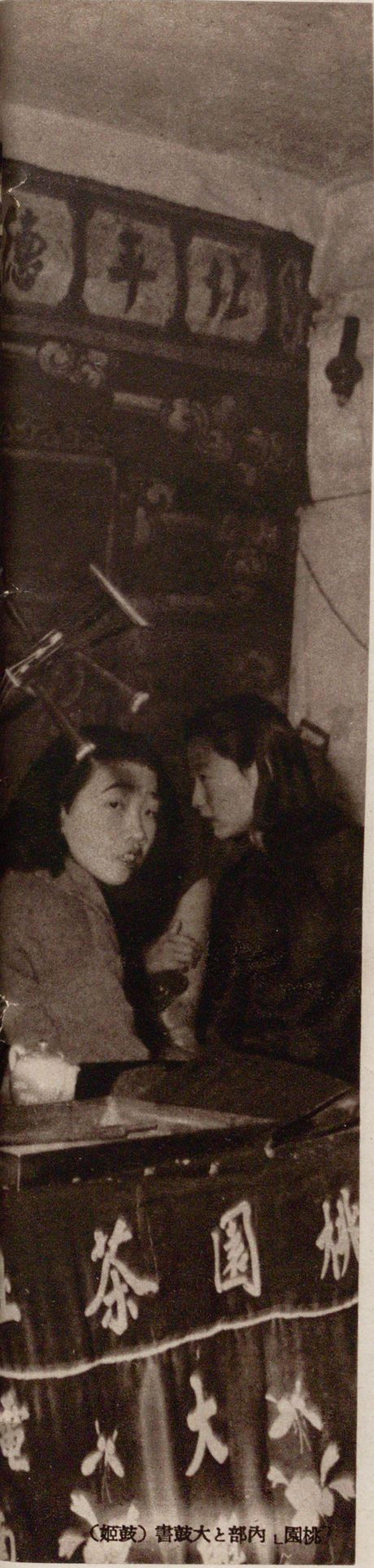
打鼓

GIRL STORY-CHANTER

歌を聴くともなく聴き、歌姫を見るともなく見、お茶を飲むともなく飲んで料金はおぼしめし…怠け者、退屈男には持つてこいの寄席を、坤書館と言ふ。北支や蒙疆のちよいとした街なら必ず有る。若い娘が日本の祭文語りといつた調子のを蛇皮線の伴奏に合せて單調なフシで語る。合の手に大鼓をポン〳〵叩くので別名打鼓（ターク）とも言ふ。「平民化之消遣（消遣は閑をつぶすの意）處所」などと華人にはなか〳〵喜ばれて一定のフアンを持つてゐる。日本人にはちよつとぴんと來ないところだ。歌を聴かせるところでもなささうだし歌姫の顔を見せるところでもなささうだし、お茶を飲ませるところでもなささうなのである。お客さんを見ると、連れの男と雑談がはずむ組、歌姫にはぜん〳〵尻を向けて雑誌や新聞を讀んでゐる組、眠つてゐる組等々、何のために來てゐるのか分らないのである

もつとも十五、六ぐらゐの子供が支那服に中折帽子をかぶつて、メリヤスながら粋なマフラーに毛皮の手袋と言ふいでたちでたばこを吸ひながら、かぶりつきに陣取つてゐるのを見ると明治時代のどうする連やオペラフアンを現代支那に見るやうな氣がする

單調なフシ…と簡單に片づけたが、専門書に就てみると地方的には京韻大鼓（北京大鼓）奉天大鼓、天津大鼓、河南大鼓等があり、道具で分けると梅花大鼓、八角鼓等となり、歌本は鼓詞と稱し各書店で賣る…とある。語りものは芝居と同じやうに稗史小説類から取つたものが多い。有名な歌姫になると「重金招聘、女鼓王 林紅玉 來了！」などゝ支那新聞の廣告を賑はすし、レコードにも吹きこんでゐる。



「桃園」内部と大鼓書（鼓姫）





大きな歴史 小さな歴史

NEWS-FLASHES FROM NORTH CHINA

臨時政府成立二周年

祝賀に湧く北京

▽十二月十四日、中華民國臨時政府は成立二周年の記念日を迎へた。この日、北京中南海、懐仁堂で、日支要人多數參列のもとに慶祝式典が催され、北支一億民衆は歡喜に湧き立つた



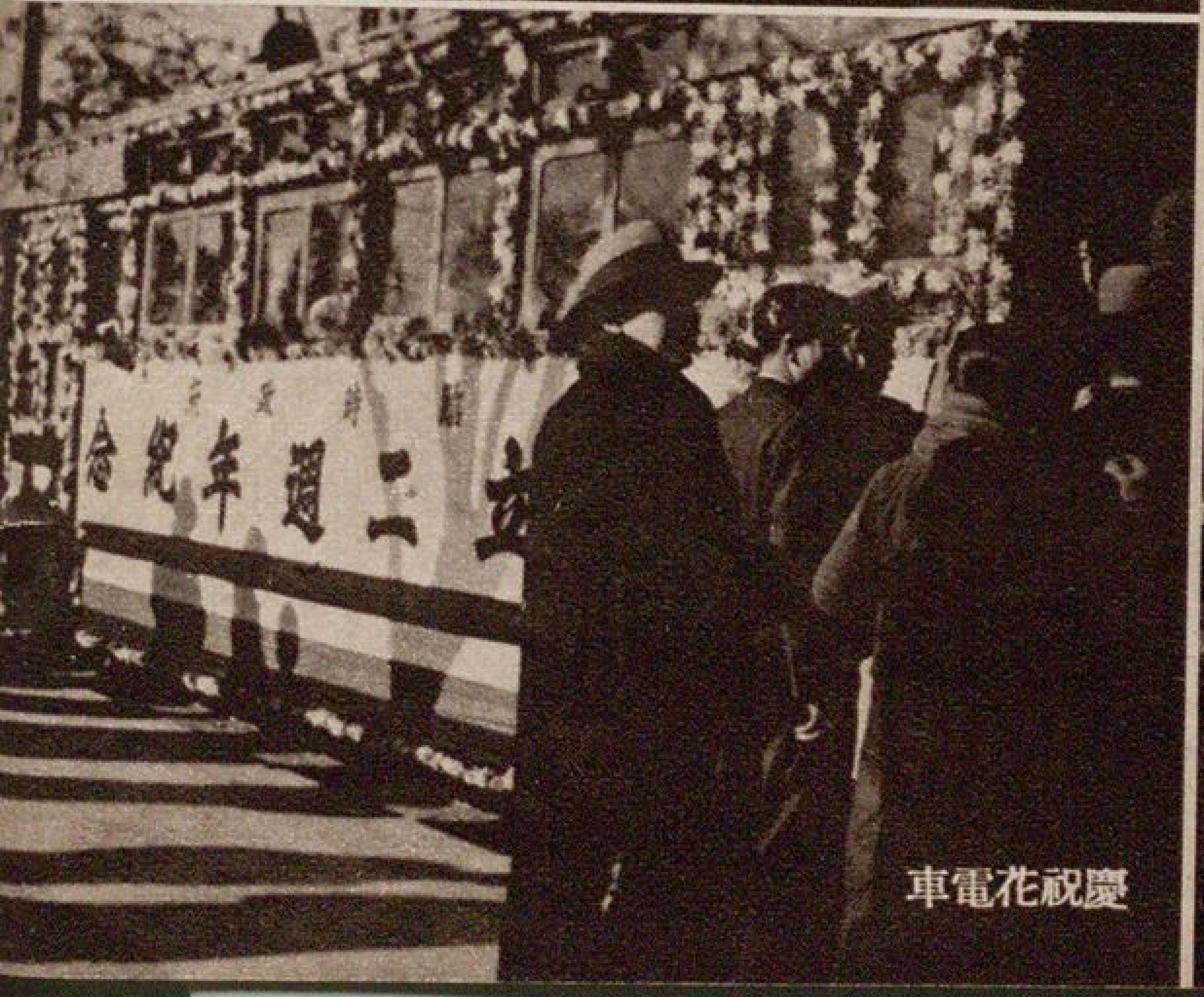
紫禁城太和殿前の民衆大會



臨時政府代表の訓辭



慶祝ポスター



慶祝花電車



慶祝アーチ

呉佩孚將軍逝く



呉佩孚將軍

第二週祭場に向ふ呉將軍令息

▽〝北方の巨星〟として民衆の信望をあつめた呉佩孚將軍は、十二月四日午後六時、敗血症のため、北京什錦花園の自宅で逝去した。曾ては直隷派の總帥として、近くは、日支和平救國の大立物として、一途に支那大衆のためをおもひつゝ働いて來たが惜しくも六十八歳を最期に波瀾に富む生涯を閉ぢた。

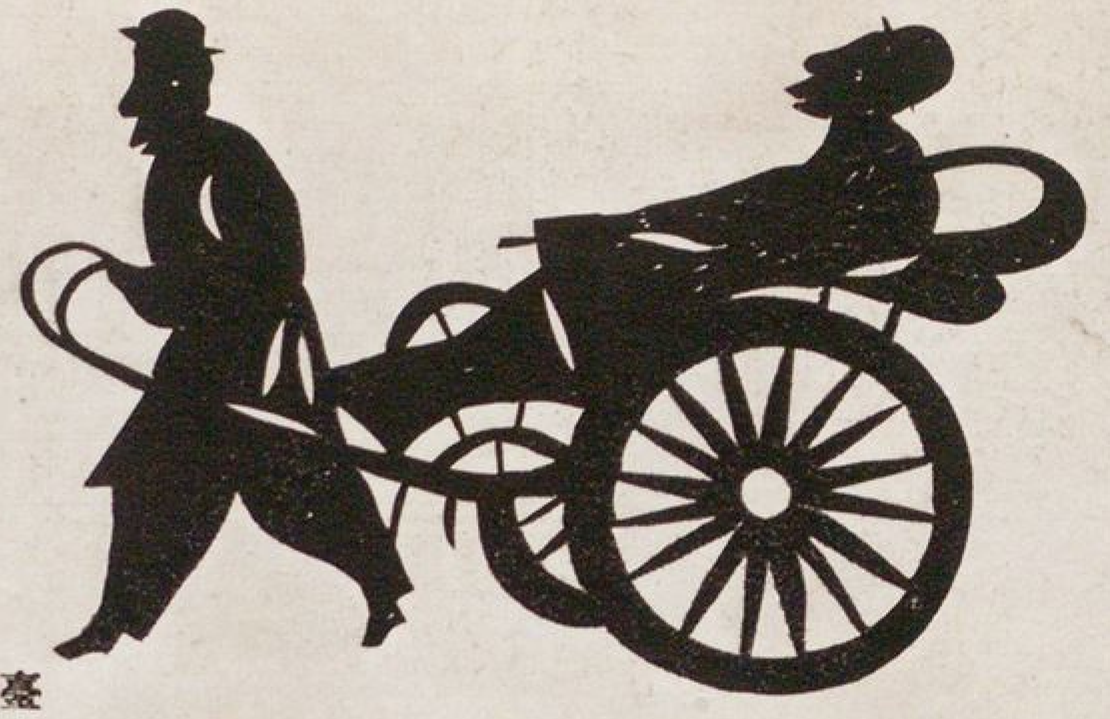
現地も代用食時代



代用食に國策を味ふ華北交通婦人社員

▽節米の聲は日本から滿洲へ、支那へ傳はり、今や全日本人を擧げて代用食時代へと驀進してゐる。北京在留邦人の大多數を擁してゐる華北交通會社でも食堂の晝飯は代用食だ。美しいお孃さん社員連も「お國のためなら……」と、マントウやウドンでお腹の戰時體制を整へる。

北京の乗りもの



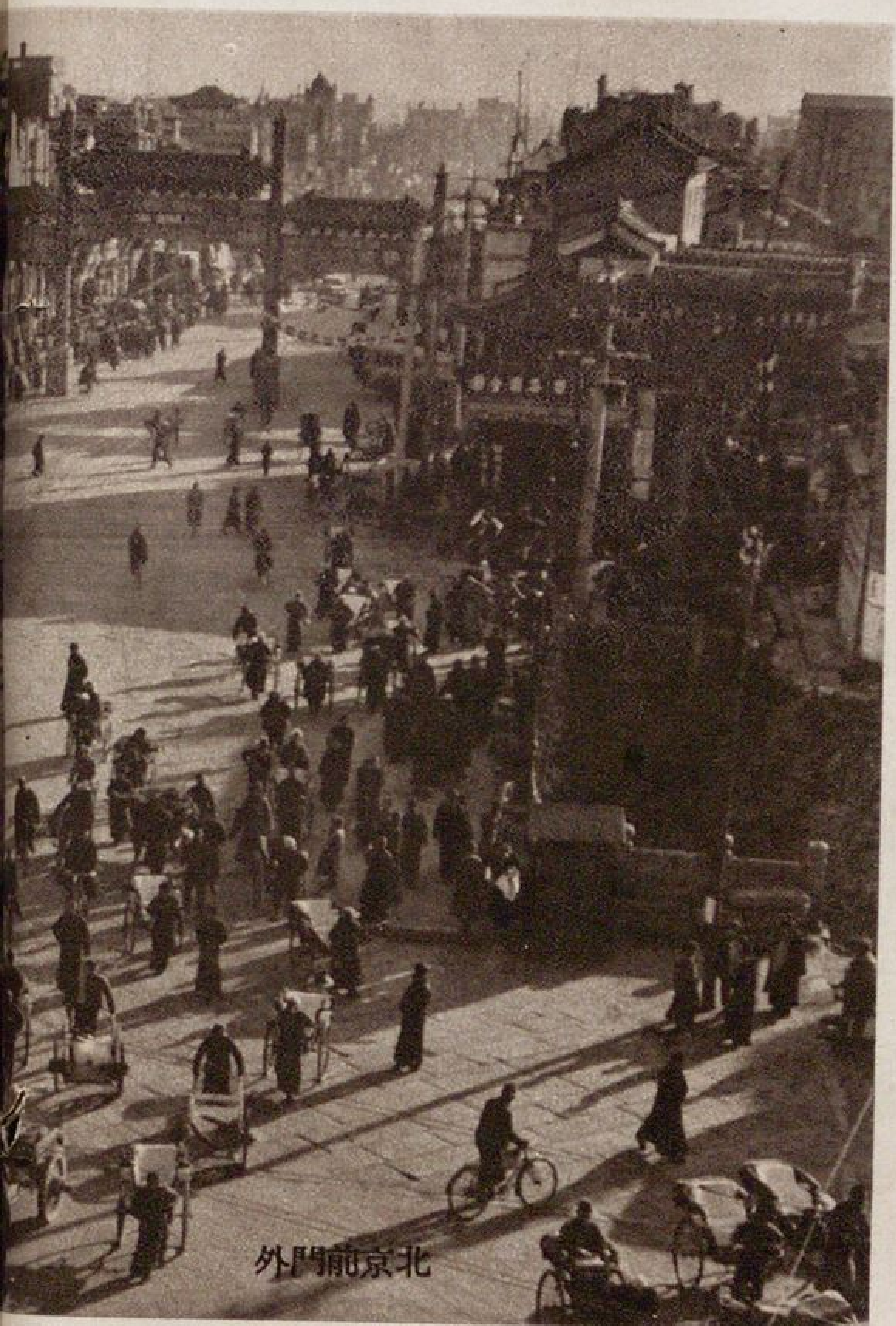
人力車（洋車）→

北京では人力車を洋車と呼ぶ。洋は東洋の洋、東洋は支那語で日本の意。名だけは、發明の本家から採つてはゐ

北京 36,763臺
東京 1,355臺



四つ角の顔役



北京前門外

バス（公共汽車）→

こちらのバスは文字通り公共的である。市内バスはさうでもないが、郊外バスになると屋根の上はお客さんが積んだ家財道具で山のやうになる。フトンから自轉車、豚まで積むのだから便利なものである。市内バスもこのごろは満員の盛況、廉くて早いから漸次洋車のお客を奪つてゐる。日本のバスのやうにサービス第一などといふことはまだまだ、邦人客には別として、華人客には車掌さんも運轉手も（もちろん華人）甚だ官僚的である



一二六臺

自轉車（自行車）

北京に限らず北支、蒙疆各地で一番歡迎される乘ものはまづ自轉車。特に、婦人用が多い。女學生たちの登校、下校は大てい颯爽と自轉車だ。自轉車に乘ることはモダンガール第一課となつてゐる。こちらの自轉車の大部分が日本製であるのは嬉しい話



北京 106,184臺
東京 908,416臺

馬車↓

馬車を讀んだ落首にこんなのがある

黄輪黒輪巍然　高聳
嗷然一聲謹　頭腫防

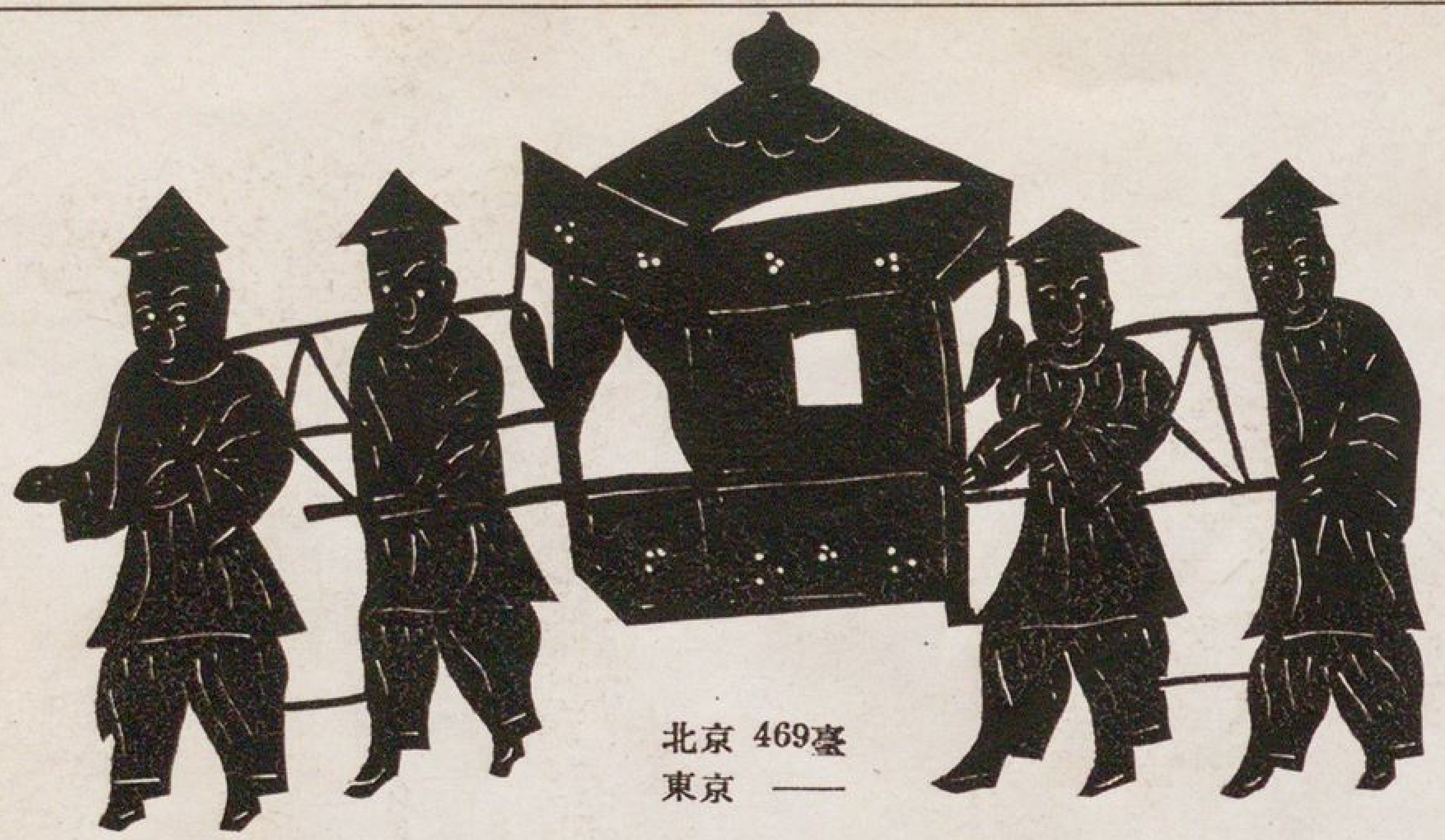
北京の馬車は綠輪綠轎、窓ガラスは洒落た曲げガラス、風雅なランタンをつけてゐる。見たところ甚だロマンテイツクだが乗ると大したことはない。座席が固くて尻が痛い、狹くて窮屈で謹



北京 207臺
東京 ——

車體に映えない茶褐、幌は夏ならば黄見た目にはなか〳〵華かだ、中には黒塗蒔繪、磨き金具を附けた自家用の豪華版もある。座席が低くて、うんと後にそり返ると散髪屋の椅子のやうに寢つちまへる、安樂至極な乗物だ。乗賃の廉いのが何よりで十町六錢が相場、これでも事變前より騰つてゐるのである。四萬臺近くもあるので市中どこにでもゐる。電車、バス、タクシーの少い北京では市民のなくてはならない便利重寶な脚である。

んで畏つてゐないと頭を打つ、それに乗賃が高く、洋車の四、五倍はする、その上臺數が少くておいそれと乗れない憾がある「一度は乗るもの、あとは見るもの」といふのが在留邦人の定評



北京 469臺
東京 ——

↑ **駕籠（轎子（チアオツ））**

駕籠は婚禮になくてならない乗物である。洋車は乗手一人に、曳手一人だが、駕籠は乗手一人に擔手は數人から數十人となる。それが足拍子をとんとん、リズミカルにとつて悠々と街を練り歩く。この物々しさが華人にはたまらないらしい。自動車が走り、飛行機が飛ぶ世の中になつても花駕籠は廢れないのである街ではまづ花嫁の乗物となつてゐるが、泰山や五臺山などでは山登りに使はれてゐる





東京 三五、四三三
北京 一、九三三

自動車（汽車（チイチョ）） ←

日本語の汽車はこちらでは火車（ホウチョ）、自動車を汽車（チイチョ）といふ。埃の多い北京の街を砂煙りをあげて走り廻るので華字新聞では街の虎「市虎」とよんでゐる。華人間では自動車に乗る人は必ず大人と相場が定まつてゐるので、支那側の官廳訪問には無理をしてもタクシーを雇つた方がよい。これでお役所に乗りつけると門衙が捧げ銃で異議なく通してくれるが、洋車などで行くと第一問事處、第二傳達室、第三何々と相當嚴重な關門がある。同一人でもこんな風に變るのだから面白い。ゴー・ストツプも自動車優先主義で自動車尊重は徹底したものだ。そのくせ大ていい古くさいフオードが多いのである

電車 ↓

事變前までは主として中流下層階級の乗物であつた。最近は邦人乗客も多い。市公署でも大連から古い電車を澤山輸入して、塗替た上、二度のお勤めをさせてゐる。以前は小さくて、狹くて、座席が板で、汚ない……とおよそ日本人の電車觀と違つたものだつたが、最近は車内の改良改善から、科學的な配車方策の實施など大へんなサービスぶりである。膨れる北京の人口をそのまゝ映してどの車も超滿員である



53キロ 105臺


讀へよ國産ノ
流線型
クラウン万年筆
新生硬質
イリヂユウム
白金ペン付
MADE IN JAPAN
無敵！國産第一位
ムッソリーニペン
スラ〱書けて
錆びず値の廉い
國産の逸品！
大阪 株式會社 澤井商店

大同石佛問答

水野清一

支那事變以來、吾々日本人の支那に對する關心は極度にたかまり、支那に對する智識も一段と躍進をみた。大同雲崗の石佛に就ても、やはりさうであつて、今まで僅に學界にのみ知られてゐた雲崗石佛が、インテリ層一般、乃至大衆一般にまでその存在を知られることになつた。それで大同に來るほどの人は、この石佛が目あてか、さなくともスケジユールの一隅には雲崗見物の一項を必ず折りこんでゐるのである。そして一日一回乃至二回のバス、その他あらゆる便宜で、日々多數の見物人がこゝに送られてくる。ところが、その人たちの第一の疑問は、きまつてこの石のほとけがいつ、何年前に造られたかといふことである。

北魏の文成帝から孝文帝時代にかけてできたといふ事でなく、今から千四百七十餘年前にできた事をいへば、それで成程と頷く。しかし、少々あわてたものは「あゝ、そんなに古い物ですか、この建物は！」といふ。

「いや、このたてものは新しいものです。おそらく、明代のものでせうが、清朝になつてもたびたび修理されてゐます。たゞこのごろ考へられることは、これらの建築物はみな新しいが、しかし、これにかはるべき何かの建築物が當初からあつたであらうといふことです。」

「しかし、それにしても、これだけの石窟をつくるのにはどれ位の年數がかかつたでせうか」

「大規模な物はみな帝室の造建ですから、都が大同にあつた時代に限られると思ひます。それで西暦の四百六十年頃から九十年すぎの三、四十年間といふ事になります。たゞ西方の諸石窟や小さい佛龕はその以後、北魏が亡びてしまふまで、まだ二、三十年は引續き造れたことでせう」

そのつぎには、誰がつくつたかといふことがきかれる。つくつたのは何の何某かといふ質問である。しかし、文獻には少しもこの質問に答へられさうな材料をのこしてゐない。

そのはじめ、曇曜といふ僧侶が、時の天子文成帝に請うて造りだしたのであるから、發起人は曇曜、發願者は文成帝であるといへる。しかし直接鑿をおろした人、直接設計指揮にあたつた人はわかつてゐない。曇曜といふ坊さんは素性のよくわからぬ人物である。もと河北の定州邊りにゐた人だが、のち大同に出て沙門統の職につき、北魏の佛教行政を總轄し、また雲崗石窟内にゐて、佛典の飜譯にしたがつたことが傳つてゐるばかりで、その他のことは全くわからない。「曇」といふところから、その外國人たることが考へられるが、父祖以來の北支居住者かも知れぬ。まあ、昔のことであるから、この僧も建築彫刻のことにあかるくて設計や指揮ぐらゐはやつたかも知れない。

しかし、その鑿をふるつたのは、別にその人があつたことと思ふ。鑿をふるつた人たちも何の誰それといふ風にはわからぬが、がんらい放牧の民であるタクバツ人がこれにたづさはらなかつたことだけは、ほゞ推論しても間違ひはあるまい。おそらく、一般の美術工藝と同じく、各地から強制移住させられた漢族職人が中心となつたことであらう。たゞ當時の一般情勢からおして、トルキスタン・インド方面の人々も加つてゐたらうといふことは當然な

内容

推論といへる。

そのつぎに問題になるのは大きさである。第五洞の本尊座佛は昨年はかつたところで、五丈三尺餘あると答へると、きまつて「奈良の大佛と同じ位ですね」とくる。初めから、奈良の大佛とどちらが大きいかと聞かれることもある。支那人もよくいふ「あなたの國にもこれだけのほとけがありますか」と。勿論、あると答へるのであつて、それがことごとく銅でできてゐるといふと、支那人も一應は感心する。しかし、幾つあるかと聞かれると、もう何かとごまかして退却するほかはない。

こゝでは第十九洞の本尊座佛がいちばん大きい。まだはかつては見ないけれども、第五洞本尊よりも大きい。第十六、第十七、第十八、第二十洞の諸本尊はこれにつぎ、第十三洞本尊も大きい。これらの七洞はその本尊がほゞ伯仲するのであるから、全體とすればすばらしく大きいわけである。本尊は小さいが、石窟がこれに匹敵するものがなほ七つばかりあり、また大小無數の洞窟、佛龕が千數百メートルにわたつてならんでゐるといへば、その規模の大きさもほゞ推察せられよう。

かやうに一般の見物者が雲崗石窟をみて吐露するいつ、だれのといふ疑問はまことにすなほなものであつて、たふとい體驗である。考古學といふものは遺蹟に對するこのすなほな疑問を發端として成立するものである。だれのといふ疑問によつて、人間の生活が考へられ、いつといふ疑問によつて、それが現代にまでむすびつけられる。このことは歴史一般についてもさうなのであるが、文獻や遺俗によらず、遺蹟に即しておのづとこの問が發せられたところに考古學の萌芽があるわけである。

これとは別に奈良の大佛が比較にだされたのは、これがたまたま國外のことであつたからである。國外のものであるがゆゑに、それを自分の國に自分の立場にひきもどすために、どうしてもかうした手順が必要になつてくるのではなからうか。かうしなければ、どうしても自分の腹に入らないのである、納得できないのである。

考古學や歴史學も、その出發點はかくの如く單純であり、自然である。しかし、その答はいつも單純であるとは限らない。だから何時といふ問には、更にその時代々々の特色が考へられ、それが更に古い時代、そしてまた後の時代にどう關聯するかといふ風にすゝめられる。誰といふ問には、その當時の民族乃至諸民族の生活が擧げられ、國際的な雰圍氣の下にその生活が考究されなければならない。さういふ答をもつぱら考へて見るのが吾々歴史家の仕事で、それをもつぱら物質の資料で構成しようといふのが特に吾々考古學者の務める所である。それにしても、その爲には、なるべく根本的な、間違ひのない、詳しい現地調査が必要となつてくる。これが不充分では、いくら何でも滿足な解答は得られない。

なほ別に、直接、眼にふれるものから發せられる質問がある。そのまづ一番は材料である。

「佛像は泥ですか？」

「石です。岩をくりぬいたのです。泥の部分は、後世、こはれてから補修したものです。最初の部分はみな石です。」

「何石ですか？」

「砂岩です。」

「かたいですか？」

「御覽のとほりです。」

壁面や佛像の表面いたるところに小さな孔が見える。

「あれは何ですか？」

「あれは泥でもつて補修をしたときに泥をもたせるためにとりつけた木の孔です。」

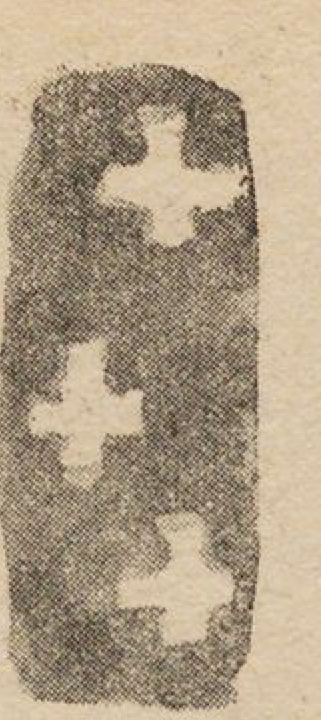
「あの黒い眼のたまは何でせう？」

「はじめは黒曜石かと思つてゐましたが、羽館君が梯子をつないで登つて見ました、すると黒い釉のかゝつた陶製品でした。それにも二種類あるやうです。一つは遼、金頃にまで遡る黒釉、他はごく近頃の物です。」いつか谷川徹三氏が見え、「玉眼は新しいのでせうね」といはれたが、「さうでもないでせう」と答へた。しかし、そのゝちよく考へてみると、どうも新しいやうにおもへる。少くとも第二十洞の露天の大佛と脇佛にとつては黒い眼球だけよけいなもののやうに見える。この下に立つて黒い眼球のない、まぶちのすつきりととほつた顔を想像すると、どうもそれが北魏のむかしの大佛であつたやうな氣がした。

「それにしても、このあたりの山にどうして木を植ゑないんでせうね」

「山とみえるのはみな臺地です。上は平で畑です。谷あひにかう見るから山のやうに見えるだけです。」

谷あひの村には木がある。ほかには全くない。臺上にあがると、黄いろい臺地が起伏しながらはるかにつゞき、今は用もなくなつた國境防備ののろし臺が點々としてあちこちにつらなつてゐる。これが雲崗の風景である。（筆者は東方文化研究所員）



支那建築の話

村田治郎

表題の支那建築といふのは必しも支那にあるすべての建築を指すのではない。北京の交民巷とか天津や上海などの租界の建築を、果して支那建築と呼んでよからうか。それは大抵西洋建築の範圍に入れるのが普通である。アメリカ合衆國の大都市シカゴに熱河承德の普陀宗乘之廟の本堂をそつくりまねて建てたが、それは言ふ迄もなくアメリカ建築でなく支那建築である。こんな風に考へて見れば、何々建築といふ名稱は元來その所在地域に基いたのであつたが、今ではさうとばかり言へなくなつた事がわからう。

だから此處でいふ支那建築とは、昔から支那で育てられ成長した支那本來の建築を指すのである。尤もそれは支那で芽生えたものばかりといふ意味ではない。外國から支那へ傳へられたものが、長年の歷史を經て完全に支那化された場合には、支那建築に入れてよい。一例をあげれば佛塔は印度の佛教建築に端を發したのであるが、しかし早くから支那化して次第に印度では見られない姿になつたから、これを支那建築に加へるのは當然であらう。

◇

支那建築を一見すれば、何處がどうとはつきり言へないにしても、とにかく西洋建築などとは似てもつかないものであり、日本の建築とも可なり違つてゐるのを感ずる。さうした區別が誰にでも出來るのは、支那以外にはないやうな獨特の諸要素が、支那建築の中に含まれてゐるからである。

その諸要素を考へて見ると隨分種々のものがあり、支那人の精神的・物質的生活形式とか、支那の歷史・氣候などのやうな直接には形として表はれてゐないが、しかし建築生成の根底をなしてゐる要素もあれば、屋根とか柱などのやうに明瞭に眼に見える要素もまた少くない。建築といふものはそれ等の諸要素がバラバラでなく、渾然と一つに統合せられて始めて獨自の形となり、また特有の風格を覺えしめるに至るものである。斯る諸要素が大略同様の地域では建築もほゞ同じ傾向が普遍し、諸要素を異にした他の地域のものとは明かに區別が出來る。さうした普遍的な建築の風格・形その他全般の傾向を一括して、建築様式といふ言葉で言ひあらはすことになつてゐる。

太古からの建築様式を一々述べてゐては際限のないことであり、既に過去の存在となつたものも少くない。現在地球上で最も廣大な地域に活動してゐる建築様式は四つある。それは

西洋（歐洲）建築様式
印度建築様式
回教（イスラム教）建築様式
支那建築様式

の四つで、西洋建築様式は歐洲で始まつたが今では南北の米大陸・濠洲を始め世界いたるところで行はれ、回教建築様式はアフリカ大陸北部からエヂプト・西南アジヤを經て中央アジヤ・印度に亙る地域に普及し、印度建築様式は印度・セイロン・ビルマ・シャムより南洋諸島に及んでゐたが今では稍々沒落に頻してゐる。支那建築様式は支那全土を覆ひ、その影響は南は印度支那方面、東は滿洲・朝鮮・日本に及んでゐる。

これで支那建築様式の世界建築界に於ける地位がわかると思ふが、更に四大様式の中で西洋を除く他の三つまでがアジヤ地域で發生して居り、西洋建築様式とてもエヂプトや西南アジヤの古建築の流れをくんで芽生え育つた歷史を顧れば、實に東洋は全世界のすべての重要建築様式の發源地だつたと言ふことが出來るのは愉快である。

ここで念のために言つて置きたいのは、四大様式が世界の建築様式の全部でなく、その他にも多くのより狹い地域にそれぞれ其の地方固有の傾向が存してゐることである。

その最も著しい好例として日本の建築をあげよう。日本建築が支那建築様式を多分に採り入れ、特に佛教建築が支那のものを模倣することにつとめたのは事實であるが、その他面に常に日本固有のものを保持し續けて、佛寺でさへも日本化を絶えず行つてゐる。太古以來嚴として存在する神社建築の様式を見よ。建築の中で壓倒的多數を占める日本住宅の様式を見よ。

斯く地方固有の特色を考に入れると支那建築様式の純粹性は支那本土から遠ざかるにつれて稀薄になるから本場の支那本土で支那建築家によつて作られたのが最も純粹な様式と言へよう。

建築様式の特徴をのみこむことが出來れば、一見して他の建築様式との見分けがつく。建築を完全に理解する爲

には、あらゆる根本的要素にまで掘り下げて追究しなければならないが、併しこんな風に文字や言葉で説明しようとすれば、殘念ながら眼に見える範圍だけの特徴の幾分かを指摘し得るに止まることを御斷りせねばならない。

人目をひく第一のものは形である。洋の東西を問はず、建築であるからには柱を立て壁を造り其の上に屋根を載せるのだから、どこの建築でも同じ形になりさうだが、實際は不思議にも形がすべて異なり、その形が樣式上で最も眼につく特徴を示すものになつてゐる。

日本人は日本建築の中に含まれた支那的要素に慣れてゐるために、歐米人が支那建築に始めて接した時ほどの驚異を感じないけれども、それでも日本建築では經驗しなかつた多くの點が見出されることと思ふ。

尤も日本人には非常に珍らしいが、歐洲人にはそれほどでないものもあるだらう。例へば北支から滿洲西半部に多く見うけられる泥屋根・泥壁の民家は、必しも支那地方にだけある獨自のものではなくて、中央アジヤ・西北印度・イラン國・西南アジヤ・北アフリカに亙る廣大な地域に見る一系統の原始的住家であり、それについての知識は支那建築よりもずつと昔から歐洲へ傳へられてゐたのである。

純粹な支那建築樣式の特徴はどんな點であらうか。

何より先きにあげてよいのは反り上つた屋根の形であらう。凸曲線の屋根は他の三大樣式で屢々用ゐるのであるが、支那のやうな凹曲線の屋根は全く片鱗も見ることが出來ない。反り上つた凹曲線の屋根を持つ建築は、それが何處にあらうとも支那建築の影響をうけたものと斷じてよい位である。

屋根瓦の形と色とにも特徴がある。黑みがかつた灰色の瓦が既に他國とは違つた印象を與へるが、更に黃・綠・藍・紫・黑などの釉藥瓦に至つては、古來歐洲人を驚歎羨望せしめるに十分だつた。また屋根瓦の上にのせた樣々の姿態の人物・禽獸などの彫刻瓦や、棟の端にそびへる奇怪な尾をまく動物は、支那ならではの感を深くせしめる特異な存在である。

屋根の下から柱の上部へかけての複雜な木組み構造は、軒を深く持ち出すために案出されたもので、我々はこれを斗栱と呼んでゐる。斗栱に類する構造は印度建築に極めて幼稚なものが見出せる程度で、他の建築樣式にはないと言つてよい。

窓や扉の形や構造にも異色はあるが中でも其の棧（組子といつてよい）が組み合はされて、千差萬別の模樣をつくり出すところに支那趣味の横溢するのを覺える。

垂木から斗栱・柱へかけての濃厚な朱や綠の彩色は、壁や床の黑灰色煉瓦と相映じて、歐米の裝飾・色彩法とはおよそ緣の遠い、原始的なやうで洗煉された一面のある異樣な雰圍氣をかもし出してゐる。

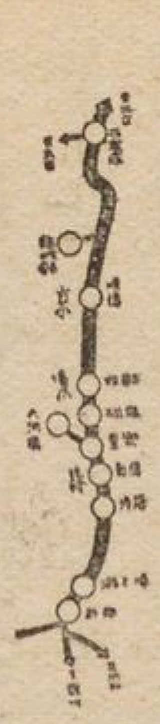
支那建築は大部分が一階建てであつて二階建ては少なく、まして高層の樓閣は特殊な場合に限り、殆んど實用には適しない。一つ一つの建築物を見れば、宮殿のやうな大きいものもあるにはあるが、大多數のものが規模小さく且つ間取りが單純で、複雜な用途には使へない。

從つてどんな場合にも數箇の建築物をならべて漸く役目を果たすやうな有樣である。ありふれた小住宅でも四つ位の建築物を組み合せて居り、宮殿などでは無數のものが必要になつてくる。斯く小單位の建築物を集めて一つの合目的のものをつくる所に支那の風格が出てゐるのであるが、しかしまた其處に支那建築の最大缺陷たる非實用性が生じてゐるのを見のがせない。

箇々の建築物の集合に必ず同じ配置法がとられることは、宮殿とか大きな寺廟を見れば直ちに理解出來る。それは小住宅に於ても同樣であり、最も主要なものを北側に置いて正面を南に向け、その前方の東側と西側とに南北に長い建物を西向き及び東向きに置き、更に南側の中央に建物を配して、四つの建物でまん中に四角な庭（院子）をつくり出す。大きな建築でも何回でもこれを前後に繰り返すのみである。かうして箇々の建築が南北に走る中心軸に對して整然と左右對照的に配置せられて、渾然と統一された建築群をなすのである。

支那建築の美は斯く統制のとれた集團となつて始めて十分に發揮される。箇々の建物はどれもこれも同じやうな外觀で面白味のないものでも、法則通りに配列されて見ると捨て難い味が出るのを感ずる。しかしまた此の配置法が如何にも形式的に過ぎ、まるで變化のないのも事實である。左右對照の配置法のためには不必要な建築でも造らなければならない。箇々の建築物でさへ左右對照の法則が支配して居て實用性を超越してゐる。遂に西洋に於ける均衡の美が支那では理解されないらしい。（筆者は京都帝大敎授）

京漢沿線史蹟ところどころ



小野勝年

石家莊から南進するとやがて順德に達する。此處は今、冀南道政府の所在地で地方的行政の一中心地となつてゐる。城廓の如きも規模壯大で、これまた過去に於ける繁榮を物語つてゐる。勿論この城壁が煉瓦で包まれたのは明代のことであるが、周代には邢國がこの邊にあり、降つて石勒は建平城を築いた。それが現在の城の基礎になつたといふ傳へもある。元の時、順德府が設けられて以來、明も淸も共に府治の所在地であつた。元といへば、その國號は易經の「大哉乾元」といふ義に基いて定めたものであるが、しかもこの國號を選んだ宰相劉秉忠は實に順德の出身者だ。彼は若くして城內天寧寺の僧となつたが、博學多才の譽高く、後に忽必烈に認められ重く用ひられた。元初の諸制度は彼の意見によつて創められたものが多かつた。また彼についで學んだ者に郭守敬がある。守敬は天文算學に明るく、或は授時曆を編纂し、或は通州と北京（當時は大都と呼ぶ）とを結ぶ運河を開鑿した。城內には開元寺と天寧寺とがある。何れも唐代の創建だと傳へてをり、廣い境內を有するが、今は相當荒廢してゐる。しかし元代には頗る盛大で、それは秉忠や守敬が、この地の出身であることと深い關係があつたためである。なほ城內には唐の玄宗皇帝が自ら注釋をされた老子道德經碑がある。大きな八角柱に刻したもので、易縣のものと併び稱されてゐる。

邯鄲は順德から五つ目の驛である。盧生の夢の物語で邦人には頗る膾炙されてゐる名だ。戰國の昔こゝに趙の國都があり、諸方の人々の來る者多く、甚だ殷盛だつたらしい。故城は縣城の西南約八支里にあり、また西北二支里には武靈王の墓もあるといふ。城內には廻車巷と稱する處がある。藺相如が廉頗を避けた「兩虎共に鬪へば共に勝たず」といふ有名な故事の起つた處だと傳ふ。

磁州窑の名を以て知られた磁縣の城外南方には、魏の曹操の七十二疑塚がある。累々たる小丘が車窓から見えるが、これは彼が後世の者に墓を發かれるのを恐れて僞塚を造り、その眞なるものを知らしめなかつたのだといはれる。劉備や孔明の御蔭で損な役割に立たせられるが、實は相當な人物で、政治家としては三國時代最も擢んでてゐたやうである。響堂山は雲岡や龍門ほど一般的でなく規模も小さいが、北齊時代營造の石窟寺として著名な佛蹟でまた佛教美術史上重要な位置を占めてゐる。南響堂山は磁縣に屬し、北響堂山は武安縣に屬する。縣を異にしてゐるが、兩者は近接してゐて、此處に詣でるのには磁州站で下車する。

豐樂鎭站の東南五支里には銅爵臺址がある。これは金鳳・冰井二臺と共に曹操が鄴都北城の西北隅に築いたものと傳へられる處だ。その後、趙の石虎はこれに崇飾を加へ、妓女を侍らして酒宴を催し、北齊の文宣帝は工匠三十萬人を使用して一層大規模な營造を行つたといふ。のち周の建德七年遂に廢され、隋のとき韋孝寛はこれを燒拂つてしまつた。この廢墟から出る瓦磚は質が頗る細緻で、硯とするに適し、銅爵臺瓦、冰井臺磚などと稱し、世人の頗る珍重するところであつた。然し元代に於て既に仲々得難いものとなり、贋物が横行した由を納新の「河朔訪古

記」には記してゐる。豐樂鎭の東一支里許りの處には西門豹の祠廟がある。彼は戰國の時、魏の文侯に仕へ、鄴を治め、漳水を引いて十二の渠を鑿し、田地を大いに開いたと傳へられる。この人に就ては面白い話がある。彼が鄴の長官となり、その地の長老と會つて、民の疾苦を問うたところ、彼等は河伯（神）に婦女を娶られるのに苦しんでゐると答へた。當時此處では河伯を祀る際、河伯に嫁せしめる爲だと、巫女が民の中から美しい娘を選び、盛裝させて河中に浮べ溺死させる風習があつた。その爲に美女を持つ者は遠方に逃げ、祭の費用も莫大だつたので、鄴民は漸く貧困となつた。この話を聞いた豹は、もし祭祀の期日が來たならば自分も共に行き、娘を見送るから告げてくれと命じた。愈々その當日、豹はそこに赴き巫女に會ふと、年七十歳餘りの老嫗で、女弟子を後に從へてゐた。彼は美醜を見んと犧牲になる娘を帷の外に呼び出し、そして曰く「この女は醜いから、河伯の婦人とするに足りない。巫女を煩はし、好き女を更に求めて他日送りたい、と河伯に報ぜしめよう」とその老嫗を河中に投げ込ませた。暫くして「隨分暇がかゝる」といひ再び弟子を投げしめた。更にまた「女子では譯がよく申せないのであらう」と三老と呼ぶ地方の役人を、河中に投じた。何れも歸らないので、更に別の役人を投ぜんとした所、今度は皆が叩頭し罪を謝した。そこで豹は衆に說いてこの淫祀を絕たしめたといふ。

彰德の驛の手前で洹水を渡る。右手の車窓から見える處が古の殷の都の址卽ち殷墟だ。殷墟の名は早くも「史記」に見え、また殷王河亶甲の城が洹水の南岸にあるとか、彼の塚から宋時代に銅器が出たとかいふ傳說や記載もあるが、これが特に注意されるやうになつたのは新らしい事である。清朝の末期、洹水河畔の小屯といふ部落附近から動物の骨や龜の甲に刻した甲骨文と稱する文字が多く發見された。これが漢字の最も古い形を示すものであること、占の爲に使用されたものであること、その他研究するに從つて殷代の種種な事情が明かとなるに至つたのである。甲骨のみでなく、此處からは銅製品、石器、土器類も多く發見され、今から約三千年も昔の歷史や當時の文化狀態が、漸次闡明にされる結果となつた。殷墟は實に支那文明が如何に古く發達してゐたかの證據となる重要な史蹟だ。しかし此處は以前から盜掘が盛んに行はれ事變後はます／＼甚だしいやうで殘念なことだと思ふ。

彰德の城內には尉遲公廟碑や晝錦堂記碑がある。前者は後周の尉遲迥のことを記したもので、唐代の所建。碑陰には彼が靈異あり、祈れば晴雨驅蝗に應驗のあることを記す。後者は宋の歐陽脩の撰、韓琦のことを記したものだ。現存の碑は後代の模刻であるが、當時四絕と稱された名碑である。韓琦は宋の宰相であるが、任を退き鄉里に歸るや偶々河北に地震水災があつたので身を挺して人民の救助に當つた。そのため人民德を慕つて生祠を建てたと傳へてゐる。城內では古物保存所もまた擧げられよう。此處には佛像や墓誌その他のものが陳列されてゐる。

北門を出て約四支里、袁世凱の墓に至る。前には石人石獸等を配し宮門殿堂を設け、後に圓墳を築いた頗る宏壯な塋域である。彼は大總統となり、やがて野望を起し帝制を布かんとて失敗はしたが一代の成功者だ。墓前に立ち敬意を表すれば時の變遷の目のあたりに浮び、感慨轉た無量なるものがある。

湯陰は古の羑里の地と傳ふ。縣城から北方六支里許りのところに文王廟があり、小高い丘に柏樹が茂り、中に廟の屋根が現はれてゐるのが車窓からも見える。羑里とは牢獄のことで、殷の時代の呼稱だといふ。昔、殷の紂王が文王を囚へて殺さんとしたところ、或者が彼は聖人だから殺してはならぬと諫言した。そこで紂王は、聖人は靈德があると聞くから驗して見ようと、王の子を殺して鹽漬とし、それを食べさせたところ、文王は羑王の門外で嘔出した。これに依り民衆は彼が聖人であることを信じ、その場に土を盛り嘔子塚と呼んだ。後に土地の者は訛つて狗子塚といふと傳へてゐる。城內には岳飛の廟がある。規制甚だ廣大だ。門前には例に依り秦檜夫妻をはじめ、漢奸の鐵像が手枷足枷をされた姿でならんでゐる。なほ廟中には岳飛の書の出師表の石刻等があり、拓工がゐて拓片を賣る。竹林の七賢人嵆康の廟墓もまた城南さほど遠くない。竹林の七賢などといふと、亂世を他處に如何にも悠々清談に耽つてゐたやうに思はれるが、彼は魏の文帝に讒言され、死刑に就いた。刑の日、日影を顧み名琴を彈じ、從容として逝つたと傳へられてゐる。

新鄉站の手前、潞王墳站は名の如く明の潞王の墳墓があり、更に驛を距ること東北五支里、蘇門山下には所謂百泉がある。その景は北京萬壽山にも比すべき素晴らしさといはれるが不幸にしてまだ訪ふ機會をもたない。（完）

支那芝居雜觀　9

季節の芝居

石原巖徹

應節戲と云つて正月、端午、七夕、中秋等の節句時に、それ〴〵の意味に因んだ芝居が興行されるのを近年の例としてゐる。無論總て舊曆による。

正月の芝居には靑石山、上元夫人、薛剛鬧花燈等がある。「靑石山」は、靑石山といふ處に千年を經た九尾の妖狐が居て、美人に化けて人を誑らかすのを、道士が頼まれて、天上に神となつてゐる關羽の一黨を呼迎へ、之を退治するといふ筋で、關羽の子の關平（武生）と九尾狐（武旦—美人に扮す）との大立廻りを觀せる芝居。魔を降すといふところが、民間信仰から緣起が好いわけである。「上元夫人」は漢の武帝が神仙を求めて、西王母の嘉納する所となり、その援助により上元夫人といふ天人の降臨を受け長生の道を授かるといふ筋で、天人の歌舞ときらびやかな燈籠の裝飾を觀せる芝居。「薛剛鬧花燈」は、唐の功臣薛家の後裔薛猛の弟薛剛といふ豪傑が、元宵節の夜、酒に醉つて殿中で暴れ、奸臣張泰の讒に遭ひ、剛は逃れ、猛の一家は悉く斬に處せられる。名臣徐策は薛家の斷絕を悲しみ、ひそかに自分の子と猛の子蛟とをすり換へ、蛟を養育して豪傑にして、叔父の剛の許に送り、力を合せて雪寃の兵を擧げさせ、結局奸臣滅びて薛家の再興成るといふ筋。この物語は幾つかに區分して平時に上演される（法場換子、雙獅圖、徐策跑城等）。これを通し狂言として演るのは上海派であつて、通しの場合に始めて、題名の如く正月芝居となるわけである。但し北京では餘り演らない。

端午の節句を機として演る芝居は、混元盒といふ藝題だけである。同じ題名でも演者に依て內容に種々の變化があるが、根本は端午の節句の民間習俗たる五毒（蝎、蛇、蜈蚣、守宮、蟇）を除くといふことから來てゐるもので、これらの毒蟲の精を道敎の神樣たる張天師が退治するといふ筋である。一例として侑小雲の演る混合盒を見るに、貞女蘇巧雲若くして夫に死別し娼家に賣られたが接客を背んぜず自殺する。蝎の精が巧雲の屍を呑んで巧雲に化け今度は客を取る。巧雲の靈魂は蝎の精が自分の貞節を破つたのを怒り、張天師に訴へる。天師は神兵を降して蝎の精を退治するといふ筋である。この劇は蝎の精が化けた美女と、神兵との大立廻りが觀せ場である。

七夕に因む芝居はいふまでもなく「天河配」即ち牽牛織女二星にからまる民間傳說の劇化せるものである。この芝居は頗る支那的な荒唐無稽を極めたもので、牽牛と織女の二星が、天帝の支配により民間に下つて、牽牛星は張某の弟となり嫂に虐待されて牛飼ひをやり揚句は家出する。天河といふ處で水浴してゐる女の着物を盜んで逃げるのが緣でその女（織女星）と結婚するが男の留守中に女は盜まれた着物を探し出して逃げる。これを知つて男は後を追ひかけると、天河で王母（神仙傳說の女神）のために遮られ、そこで一年一回七月七日の夜だけ逢はしてやるといふことになる。水浴の場の肉襦袢による艶景と、最後の場面に鵲の橋の舞臺裝置を華やかにすることと、牛飼の場合に眞物の牛を舞臺に上せるといふ惡趣味が近年流行してゐる。

中秋節の芝居は梅蘭芳の十八番「嫦娥奔月」を演ることがあるが、最近は流行しない。結局中秋には今日は應節戲を演らないと思つて差支ないやうである。

道教片言

石橋丑雄



複雜怪奇を超越したかに見える支那の人達の心理を知るためには、その民族的信仰とも稱すべき道教を見ることも捷徑の一つであらう。私は古來東洋君子の國と稱へられる日本人が夙くから儒教的な禮教の民族であつた如く、かうした不可解な心理の持主に見える支那人は、素質的に道教的思想の民族である見地から、新來の人達に對して、支那人を知るためにはぜひとも道教を見る樣にと勸めるのだが、この道教こそは、かの易と相並んで、支那に發生した二大思想とでも稱すべきものである。

支那には古くから神仙崇憬の思想と之を說く一派とがあつた。即ち神仙道で、誰でも煉養を積めば仙化して長生不死となることが出來るといふのである。今から二千年餘り前の秦から漢の時代には、この道を實行する方士なる者が輩出して盛んに之を說き廻り、當時秦の始皇帝や漢の武帝などは熱心に之を信じて仙化を願つた。漢朝創業の忠臣張良の如きも、服食煉養遂に仙人になつたと傳へられてゐる。

この神仙道は人類自然の慾望から生れたもので、殊に支那民族に執着した一大信仰とも見るべきものであるが、これを宗教化したのは後漢末の張陵であつた。この人は張道陵とも呼ばれて張良七代の裔と稱せられ、若い時大學に學んで五經に精通し、晚年四川に入つて不老長生の道を極め、順帝の永和六年（皇紀八〇一年）鵠鳴山に籠つて初めて法を說き術を行つた。その道を奉ずる者共から教會維持の費用として五斗の米を出さしめたので、その教を五斗米道と稱しその徒黨を米賊と呼んだ。この教は不老長生を求める神仙道を中心として、これに老莊の養性治心の說を加へ、更に支那在來の巫祝即ちシャーマニズム的信仰をも加味したものであつた樣である。かうして張陵の子衡から孫の魯に至る三世に亙つて此の道を修め、陵を天師といひ、衡を嗣師と稱し、魯を孫師と呼んだのであつた。この關係から張陵の教を天師道といひ、此の三人を三張と稱する。その後魯の子盛に至つて江西省龍虎山に移住し、爾後道統連綿として繼續し遂に今日に及び、世に張天師と尊崇せられてゐる。

然し此の五斗米道は當時に於ては宗教として幼稚極まるものであつたことは勿論、その信者の如きも單に教匪的存在に過ぎなかつたものの樣で、彼の漢末に起つた黃巾の賊を率ゐた張角の如きも建魯の一族で夙にこの道を修めて太平道と稱したといふ。その後三國から晉に亙つて魏伯陽・葛洪等の方術家が出て、神仙道に方法と根據とを與へて學理的基礎を開いた。しかし、當時まだ幼稚淺薄の域を出でず、後南北朝時代に於ける佛教の隆盛に刺戟せられて俄然急激なる發達を見るに至つた。北魏の寇謙之を始めとして、宋の陸修靜・顧歡、齊の張融・孟景翼、梁の陶弘景等の有力なる道士が輩出し、この間道佛一致論が盛んに說かれる一方に於ては、道教の信仰に因つて北魏の太武帝と北周の武帝との廢佛が相繼いで斷行せられ、又一方佛教の經典に模倣した道教の大經典も陸續編纂せられ、教理や教義も研究確立せられて內容形式共に備はり、遂に天下を風靡する一大宗教となつたものである。道教の名が始めて見えるのも寇謙之時代からの樣で、北魏以後は屢々道教を以て國教と定められたこともあつた。

降つて隋唐の兩世は道教々理の研究期とも見るべき時代で、唐初に王朝が李姓なるの故を以て、之を老子の後裔であるとしたことから佛教徒との間に大きな確執を生じ、道佛兩教の間に論難論義が盛んに行はれ和爭相半ばして遂に武帝の廢佛にまで立ち至つた。又この間、經典の新編や僞作改竄等も盛んに行はれ、遂に宋元から明の初世に至つて經典道藏の完成を見たが、多數の教派が分生したのも亦この間であつた。殊に北宋末徽宗の朝に在つては道階二十六等・道官十六等・道職十一等が設けられ、當時徐知常や林靈素の如き道士は常に宮中に出入して講經・方術・齋祭を行ひ、遂には徽宗皇帝は天神の降世であるといふ樣な說を流布して之を信ぜしむるに至つた。

この時代には道士に高祿を給し、道觀には數千頃の田地を賜り、道士は皆妻妾を置いて美衣飽食に浸り、遂に一時道界の大腐敗を招來したのであつたが、其の間宋の呂洞賓・張紫陽・王重陽・馬丹陽を始め、元に邱處機・酈希誠・張宗演、明初に張宗初・張國祥等の偉道士が輩出した。即ち王重陽は全眞教の開祖、酈希誠は眞大道教の開祖

で、邱處機は元の世祖に仕へた長春眞人であるが全眞道教の盛大になつたのはこの人の力が多い。この全眞道教は道教諸派の中で最も勢力を有つたもので、其の長所は老莊の淵靜思想を根柢として道教固有の愚迷な信仰を去り、佛教の禪定を取り入れて修道の方法とした事に存する樣である。

かうした新派の發生は宋時代から甚しくなつた道界の腐敗と、當時の不安な社會狀態から招來された民心の沈滯とに因る自然的な結果と觀られるが、道教に南北二大宗派の出來たのも宋末であつた。此の南北兩宗の差は結局自力他力の相違とでも見るべきもので、即ち南宗が服食煉養以て人の眞性を保養することに努める自力宗であつたのに對して、北宗は符咒科教（讀經）に依つて人の眞命を保養することに努める他力宗であつた。後年明末から清に亙つては道士の間に偉人物無く、折角集輯せられた道藏の諸經五千五百卷も、之を讀破する老道無く空しく塵埃の中に埋れて毎夏一回の曝書を待つの體であり、曾ては論爭論議の相手方であつた支那佛教の末路と軌を一にして遂に今日の凋落を來したのである。北支特に北京附近の道觀を見ても明末迄の開基に係るものが大部分を占めて居るのはこの關係からであらう。

道教ではその教會を觀又は庙と稱し、此處に奉仕する男性を道士、女性を道姑と呼ぶ。この中に奉祀せられる神像は道教の最高神たる玉皇上帝即ち元始天尊を始めとして、太上老君（老子）・玄天上帝（北斗星）・文昌帝君・魁星・呂祖（呂洞賓）・藥王・娘々・財神・竈神・門神・火神・山神・喜神・瘟神・關帝・城隍・土地・風伯・雨師・雷公・電母より三官・靈官等に至る迄、神仙・鬼神・陰司・幽卒苟も祀られざる無しであるが、これ等の大部分が頗る人間的に出來てゐて姓名や誕生日等まで有することは面白い。道藏に收輯せられた經典も頗る廣範圍に亙り、上は高遠幽深の哲學から下は男女の性關係を取扱つた房中術と云ふ樣なもの迄も纏められて居り、この房中術は內丹即ち胎息術、外丹即ち金丹術と共に長生不死延命教理の一科となつて居る。

また人間が不斷の精神修養を積む爲に作られた經典も多いが、其等の中で現在最も重んぜられて居るのは、太上感應篇・陰隲文・功過格の三經である。即ち太上感應篇は太上老君の天啓書で其の內容は道儒佛の三教を融合せしめて因果應報の理を說いたものであり、陰隲文は文昌帝君の天啓書で人は不斷に天の監督を受けて賞罰を下されることを說いてゐる。面白いことには行善戒惡の根本思想が、人間本來の道德的觀念から出たものでなくて、利害關係を考慮して打算的に行はれることである。それから功過格は日々の行善行惡を計算するに用ひるもので、善惡の價値を數字的に示した基本帖であるが、之に據つて人々は毎日善惡の取引をして自ら安心してゐるのである。

然し上記のものは主として道觀や道家の間に信仰せられる定形的道教であつて、この外に見逃してならぬのは古くから一般民衆の間に強い傳統的信仰として存する所謂通俗道教で、之は極めて低級雜駁ほとんど何等の定形も無い。勿論自ら之を道教と意識して居る者などは殆んど無い位であるが、而も支那人日常の生活や行動は之に依つて左右せられる所が多く、基督教や天主教信者の支那人も無意識の間に之に引きずられて居る樣である。この通俗道教に就ては種々の觀方も存するが、私は之が根幹を爲すものは結局前記の太上感應篇・陰隲文・功過格に佛教の宿命感やシャーマニズム的信仰等を加味した混沌たる觀念であると思ふ。

現在北京には朝陽門外に正一道教（天師道）北方の本山東嶽庙があり、西便門外に全眞道教（新道教）の大本山白雲觀があつて何れも辛うじて舊觀を持續して居る。

北支の農村 8

すたれ行く貞操

みづの・かほる



北支は古來人の道を尊ぶ國のやうに聞いてゐるが、これも農村に關する限りは、部落が同族の集團であることによつて、一層强固に、醇風美俗が保たれて來たものだと思ふ。

北支では、たとへ血緣が遠くても、同族間では、結婚が出來ないといふ慣習から、同族の集團である部落には、男女關係の間違ひが起らなかつたし、また起りやうもなかつたものである。

男女七歲にして席を同じうせずなど、孔子樣が心配せられて、特に人倫の道を强調されたのも、この大家族主義の內に起る家庭の亂脈や、同族集團の內に於ける、風紀の廢頽をいましめたものであると思ふ。

山東の田舍、殊に山東半島の突端にある諸縣へ行くと、道ばたにつき建てられた無數の節孝碑を見る。筆者は去る年この地方を旅して一日馬車で搖られ乍ら數へて見たところが、百幾つと云ふ數にのぼつたことを覺えてゐる。

また大がゝりな節孝坊と言つて、鳥居型の牌樓を、地方によつて見受けるが、これの最も多くて、立派なのが建つてゐるのは、山東中部の桓臺縣の縣城である。街路に所狹きまでに林立してゐる樣は、誠に壯觀である。この碑、或は牌樓は、早くから夫を失つた若後家さんが、脇見もしないで夫の亡き後を守り、老父母に孝養を盡したといふ、二夫にまみえざりし彼女の節をたゝへたものである。勿論これは、部落同族のほまれとして、同族相寄つて金員を釀出して建てられたものである。

これを見ると、通り過ぎの旅人である吾々は、誠に貞節を尊ぶ美しき農村の氣風に頭が下り、流石は孔子樣の生國だけあるわいと、感心させられるのである。ところが今日の農村が、やはり昔ながらに、さやうに風紀が嚴格であるかと云ふと、吾々の乏しき農村調査の結果から云ふと、――こんなことは他國人の吾々には、なか〳〵窺へない事柄ではあるが――遺憾乍ら決してさうばかりとは言へないのである。

近年農村から生れ出る夥しき私生子は、何を物語つてゐるであらうか、更に都市縣城にはびこる私娼窟や、女郎屋は、吾々に何を敎へてくれるだらうか。筆者は、かうした農村の實情を、目のあたり見せられ、聞かされて、ありし日の節孝碑を眺めながら、嘆息これを久しうさせられるのである。

さて筆者は、今日北支農村の風紀がかくも廢頽した所以のものは、何んであるかを考へて見たい。それは第一に北支農村からこゝ數十年に亙つて行はれた、滿洲への出稼が主因をなすもので、第二に、今日北支農村の貧窮が、第三には、女性の封建的忍從への反逆がその原因をなしてゐるものと思ふ。

前にも述べたやうに、部落民は滿洲へ出稼ぎに行くのを嫌ふ。それの一つは、出稼ぎ歸りは、外からろくなことを覺えて來ないからである。彼等はとかく旅の恥はかき捨てで、三年五年と滿洲に働いてゐる間に、折角部落で育てられた部落かたぎや、心情は、すつかりどこかに置き忘れて了ふ。ハイカラな風や、生意氣な風や、言葉や、贅澤な風や、すべての惡態弊風は、出稼歸りの若ものが輸入して來る。殊に近年まで、純潔であつたと言はれる部落にも、いまはしい花柳病患者があることを、農村調査で知つたのであるが、これも出稼歸りの若ものが、擔ぎ込んで來るのである。

山東の田舍を步くと、部落で長い着物を着て、髮でも分けてぶら〳〵してゐる奴は、大抵滿洲の出稼ぎ歸りである。片言まじりの日本語をしやべつて村の古老などを煙に捲いてゐる樣子などを見ると、わがことのやうに情けなくなる。又かう云ふのに限つて、折角滿洲へ渡つても、金など貯めても來ないで、惡いお土產ばかりもつて來るのだから始末に終へない。

又これは、あながち滿洲歸りばかりでもない。近年農村からも、都市の學校へ子弟を遊學させてゐるが、これも立派なものになつて歸るのも勿論あるが、中には遊惰の子弟も出て來て、これが部落の氣風を、著しく惡化さしてゐるといふやうなことも、言へると思ふのである。

一方また農村の女性側にも、これに連れ沿つて、墮ち行く道が準備されてゐるのである。部落から出て行く滿洲出稼のものには、妻子を殘して出掛けるものも隨分多い。彼等は最も働きのものは、二年、三年に一度僅かに正月前後、一箇月から二箇月位を家族のふところに歸る。中には六年も七年も、妻と分れて滿洲に働く。甚しいのにな

ると、家を忘れたカナリヤで、どこに鳴いてゐるのやら、絶えて音信不通のものさへある。歸省して團欒を思ふは苦力でも人情に露かはりはないのであるが、往復の旅費が大變である。僅かに年十圓か二十圓か、いくばくかの金を故郷の家族に送つて、互に海を隔てて、さびしくも生活を刻んで行く。

かくして故郷に殘されて、空しく孤閨を守る名ばかりの妻君が、山東だけでも、幾十萬を數へることであらうと思ふ。はじめのうちは、滿洲の異郷に働く不憫な夫を思ひ浮べて、操も立てるだらうが、三年五年と立つ内にいつしか心の緒がゆるんで、何時歸るとも分らぬ夫を待つて、若さを縮めて行く彼女につい蟲が着く。中には夫からの仕送りも無く、生活の糧のために、止むを得ず身を捧ぐるものも、出て來るといふ狀態である。

以上は、人妻の話であるが、娘はまた滿洲へ多數の青年の出稼によつて、勢ひ女性の過剩を來たし、婚期を逸するといふわけ、それに北支の結婚は、一種の賣買結婚であるので、結婚するためには、男はせつせと結婚準備金を積まなくてはならない。これがためには、現在のやうな農村の窮迫さでは、一層晩婚を餘儀なくされて、處女の貞操に異變を來たすことになる。

それに、近年農村婦女子の、生活上の、思想上の、そして頭腦の向上は——たとへそれが、牛の歩みの如くゆるやかなものとは言へ——少くとも昔日の婦女子ではないのである。昔の女は親の勝手にとりきめる結婚に、夫に否應なしに嫁がされ、子を產んで、御飯を焚いて、働き疲れて、部落の土となつて行くのであつた。そこには、何んの希望もなければ、たのしみもない。部落から、否、家庭から一歩も出ないで夫への盲從と、封建的な家族制度の桎梏の下に、一生を捧げるべく强ひられたのである。

女性のたしなみであり、さゝやかな願ひである晴着の一枚も求めて着飾つたり、白粉の一度もつけて笑ふと言つたことさへ、農村に迫る貧窮は彼女達にその餘裕を與へてくれなかつた。況んや、女性の生命である愛の生活などと言つたことは、彼の女達には遙か彼方の夢にしか過ぎなかつたのである。

だが農村の、そして彼女達の上にはたとへ細々ながらも、文化の風が吹き込んで來て、部落には學校が出來、女の子が讀み書きを習ひ初めた。富農の娘達は、都市へ遊學するものさへ出來て來た。嘗ては、部落の世界だけしか知らなかつた彼女達の前にも、新しい世界が現れて來た。

更に、この部落の女性達の目覺めを拍車づけるものは、前述の出稼歸りの若もの達であり、都市からの遊學歸りの青年達であつた。彼等は彼女達に、モダーンな斷髮姿を敎へた。新しき戀愛道を敎へた。かくて今や浮華輕佻の風が、農村女性の上に、あらしの如く押し寄せて來つゝあるのである。

その昔、建立された節孝碑も、その當時は、部落の娘も母親から、女と生れてはと、この碑を指さゝれて、女の貞操觀念を日毎夜毎に、敎へ込まれたものであらうが、あはれ、時は移り世はめぐり、これ等の碑はすでに苔むして、近代農村の女性には、むしろ嘲笑の的、女性卑下の標識位にしか値しない。やがてはこの碑も引き倒されて、家の土臺石にされるやうな時代が來るかも知れない。孔子樣もこれでは、地下に安らかなるを得ないであらう。

嗚呼すたれ行く農村女性の貞操！これはやがて、農村沒落の道程でなくてなんであらう。筆者は北支農村更正の上に、このことがまた充分一つの課題であり得るであらうことを、讀者に告げたいのである。

謎

宇澄朗

先達て、北京中華基督教青年會に往つたら、玄關受付臺の側の壁に、二三十の謎題を美しい書體で書いた短册型の紙が貼られてあつた。會員の謎會の催しであつた。ＹＭＣＡの洋室内の謎會で、ハイカラな洋裝青年や、パーマネントのモダーンな女性たちが、その下で謎の解を靜思默考してゐる恰好は何んとなく光景にふさはしくない感じがしたけれども、それでも古雅な文戲がかうした處にも樂しまれてゐるかと思ふと、抑へきれない悦びであつた。

その中の解り易い幾つかの謎

吉人　（外國名）
吾廬　（姓）
打櫻桃　（劇名）
毛邊百張　（劇名）
炎炎若鏡東方開　（詩經）

を拾つて解いてみると

〔吉人〕　吉は瑞と同義、人は士、瑞士即ちスイスと解く。

〔吾廬〕　吾は予、廬は即ち舍、これを組合はせると中國人の姓舒。

〔打櫻桃〕　打はダース即ち十二、櫻桃は俗にいふ櫻ンボーで色が眞紅、即ち十二紅と解く。支那劇の名である。

〔毛邊百張〕　毛邊とは竹紙の一種で色は黃ろみを帶びてゐる。普通百枚一束(たば)となつてゐて百張束(まいたば)を一刀といふ。即ち解は黃一刀、やはり支那劇名。

〔炎炎若鏡東方開〕　眞紅の旭陽が炎のやうに東天に昇る樣で、詩經に如日之升といふ句がある。それが解。

これらは讀者にお解り易い例として拾つたもので、謎としての興味深いものではない。面白味の豐かなものほど自然難解で、古今の文學の蘊蓄がなければ到底解けない。

といつて學問の造詣深い士大夫たちの高級な雅遊ばかりでなく、また民間の謎も、小學生など子供の喜ぶ謎もある。例へば

長脚小兎郎　吹簫入洞房
愛喫紅花酒　拍手命喪亡
（解――蚊）

一隻大鳥沒有毛　肚裏滿裝輕汽泡
沒有手足他會走　沒有翅膀飛得高
（解――飛行機）

紅黑二色分後光　黑色不如紅色鮮
黑色退了人人愛　再退紅色不値錢
（解――木炭）

これなら小學三四年生にも解り、詩調のゴロも面白く、二三度調子をつけて唱ふやうに讀むと、わけもなく莞然解が頭に浮び出る。

この謎は、廋即ち隱語として既に春秋に創まり、唐宋の謎語となつて文學の興隆につれ益々流行を見、元、明の接武を形成し、淸に及んで更に更にいろいろ新しい型を作り、一般民衆の文戲娛樂として弘まつたが、民國になつてから時勢の影響はかうしたのどかな風趣を次第に稀薄にさせてしまつた。

古來また今日でも謎興のいちばん盛んな處は兩江の杭州と蘇州で、これは優しい文雅な讀書人が多いことと、また謎の遊びは多のものとされてゐるので、餘り寒くない南の蘇杭に盛んなのも、氣候といふことにも關係があらう。

唐宋以來、行事としての謎遊びは、元宵即ち舊正十五日の晩、士大夫讀書人の門には、其家の主人の考へた謎幾首かを書いた絹張灯籠（謎灯）を吊し其下にテーブルを設けて硯や筆や紙を置く。

其夜、讀書人たちは街々を歩き乍ら謎灯をみつけては其解を書き、旁の解答箱に入れる。そして幾日かたつと、其家から解答者へ鄭重な挨拶狀、時には古墨古箋などを賞品として贈り屆ける。かういつた雅趣ゆたかな都は蘇杭を推すが、北京にも流石に琉璃廠にはいま尙ほ餘韻が殘つてゐる。

或る日のこと、了元和尙が制錢（俗にいふ孔あき錢）二百五十錢を東坡に看せて「何んと解く」といきなり訊ねた。

「一錢四字あり、二百五十錢なれば一千字ぢや。即ち千字文と解く。何うぢや和尙」

二人は茶を啜りながら笑つた。

昔の字謎の易しいものを擧げてみよう。

晝時圓　書時方　冬時短　夏時長
（解――日の字）

啞字沒有口　惡人沒有心
中有十字路　四面不能行
（解――亞の字）

可園雜記

加藤新吉

濟南を南へ下ること幾何もなくて車窓に泰山を仰ぐ。山上に白亞造の測候所が見える。大正の末年、私が渤海を二周して二度こゝに登つた其頃にはなかつたところのものだ。

其頃、孔子登つて天下を小なりとした所を傳へる碑、秦の無字碑、道教の碧霞元君廟などが頂上にあつた。すべて今もあるであらう。これに測候所を加へて、古き信仰と新しき科學とが雜居してゐる譯だ。

泰山は東嶽であり岱宗であり支那五嶽の首位に居る。古の帝王は山上に天を祭り山下に地を祭つた。之を封禪といひ、之を行ふことは王者の特權であつた。諸侯を會してこの盛儀を行ふは敬天畏命の信仰告白と共に、蓋し大に其威武を示す機會であつたらう。

儒家に從へば、萬物を創造し照鑑する天は自に代つて民に臨むべき有德の一人を選ぶ。之を后とも王とも帝とも天子ともいふ。天子とは天の子となり以て民の父母となるもの、王者とは天の代官であり天命を受けて初て其位に卽くものである。が、天に口なし民をして言はしめるのであるから、民心の歸する所卽天命の降る所、民心を把握した者が王者になるのである。

時代によつて儒教が重んぜられたり排けられたり、孔子廟がたゝき壞されたりまた造られたり、夫子もさぞや迷惑であらう。今、儒教がいかに民心に作用してゐるかを私は知らない。寧ろ儒よりも佛よりも支那民心の機微に觸れるものは道教ではないかと思ふ。同じ天を說いても道家のいふ天の神樣が最も大衆に判り易く、それだけ有り難くも恐くもあるらしい。本來儒家の敬天思想と不可分と思はれる泰山の靈域に碧霞元君廟が建ち、其出店の東嶽廟が各地に出來たのも、その結果かと思はれる。が、さればと云つて天命とか民心の歸趨とかは問題でないとはいへない、すべては武力が解決する等といふ斷言は勿論早計である。

民心の歸趨が何に依て決るか、どうすれば民心の把握ができるか、それは理窟ではない。日本及日本人のあらゆる努力にもかゝはらず、支那の民心は……に向つて居る。彼は今次の事變によつて過去の歷史的人物の誰よりも民心を把握した。儒家者流の解釋に從へば、民心此に歸し天命旣に降る。……以て王たるべしといふことになるかも知れない。南京を捨て漢口を逃れ今や重慶に餘喘を保つといふ敗將に民心が歸するとは、之を皮肉と解すべきであるかそれとも機微と謂ふべきであらうか。

南京政府及國民黨の國民教育及抗日訓練を徹底させたもの、漠然たる觀念を確乎たる意識に變質發展させたものは今次の事變である。未曾有の刺戟が未曾有の變化を支那に齎らしたと私は考へる。形の上では、近代化された沿海商業支那とは凡そ緣遠い存在であつた奧地の古き農村支那が其面目を一新しつゝある。國民意識の確立と奧地開發の促進と相俟て支那は一大飛躍を遂げるであらう。

日本民族は支那の刺戟に因て、支那民族は日本の刺戟に因て成長し發展する、だから日支は善鄰なのである。兄弟が喧嘩しつゝ強くなる如く兩民族は戰ひつゝ強くなる。そこに、興亞の明日があらう。今更後悔しても始まらない、後悔することでもない。



山東河北を東洋のカリフォルニヤに

最近各方面で北支の果樹栽培の企業化が問題とされてゐる。濱口興業會社派遣の內村茂一氏は、六十七歲の老軀をさげて、河北、山東兩省の奧地をめぐり、アメリカ、メキシコに於ける豐富なる經驗に基づき詳細なる實地踏査をなした結果を次のやうに語つた。

山東省では肥城の桃・アンズ、萊陽の滋梨、德縣の鴨梨、曹州の綿梨、益都の柿・蜜桃、樂陵のナツメ、芝罘のブダウをはじめ津浦線各地のナツメ・ザクロ、龍口・芝罘の白菜、明水のネギなど、河北省では昌黎・撫寧地方の白梨・蜜梨・アンズ・桃・ブダウ、泊頭の鴨梨、豐臺の野菜一般など、これらはいづれも品質改良如何で頗る有望な果樹となり、果樹栽培事業の企業化も大いに期待出來る確信を得たといふことである。

氏の考へによると、今直に罐詰工場を設置して工業化を圖るよりも、まづ果樹園の買收が第一で、次に農學校を設立して支那人子弟に專門的知識を與へ、彼等の手で各地の果樹園を經營せしめ、品質の改善をはからせれば、三年を出ずして北支各地の果樹は見違へる程良質となららう。その上で濟南、靑島、昌黎などに罐詰工場を設立し、大規模な企業化をはかれば「東洋のカリフォルニヤ」として新しい大陸產業を世に問ふことが出來ると豫想される。

新聞の報ずるところによると、同氏は興亞院華北連絡部、華北交通會社などとの折衝を終り企業化についての諒解を得、一方同氏は沿線果樹園の經營に最も力を入れてゐる濟南鐵路局の全面的支持を受けて、東洋紡からの出資二千萬圓によつて、本格的企業化が實現するのも遠からずと觀測され、內地一流業者の大陸產業新分野への進出が頗る期待されてゐる。

農村副業助長に種畜場開設

北支人口の八〇パーセントを占むる農民を如何に指導すべきかについて、北支農村革新案が當局の手によつて色々と進められてゐるが、華北交通會社でもこの一役を擔ふべく昭和十五年度を期し、產業施設の擴充を斷行することになり、先づ北支全域に亙る主要地に百二十萬圓を投じて種畜場を開設することに決定した。北支蒙疆の畜產は民衆生活と離るべからざる關係にあり、地勢、氣候などその飼育に適してゐるが、畜產に關する科學的知識に乏しく原始的飼育を行つてゐたため比較的不振を續けてゐたものである。今日の種畜場の開設は從來農作物改良にのみ專念してゐた方針より一歩を進めたものとして大いにその活動が期待される。

邦人の子弟に支那語の授業を

新生支那の大業がその將來に於て在留邦人子弟の力に俟つところ極めて大なるものがあることは何人も異論なきところ。これ等子弟の敎育について大使館當局では愼重な態度で臨んでゐるが、支那を指導するには先づ支那語を知るべきであるとして、日本人側學校生徒に支那語を正科として課することとなり、それがためには先づ支那語敎科書の編纂をなさねばならぬとあつて、過般來大使館福田領事が中心となつて具體案を研究中である。現在支那語敎授は北京市內小學校の一部では、既に實施してゐるところもあるが、正式決定の上は新敎科書を使用して、全小・中學校で支那語授業を行ふわけで、小學校では四學年以上とされてゐる模樣。現在のところ實施は大體來春新學期からとされてゐる。

華北交通從事員の支那事變公債購入

身に寸鐵をおびずとも、國に奉ぜん至誠は皇軍將士のそれに一歩もひけをとらず、大陸開發の先驅を以て任ずる華北交通從事員は日夜大陸交通の伸張、擴充に健鬪をつづけてゐるが、こんど日本人從事員は年末賞與の一部をさいて事變公債を購ひ、銃後の貯蓄報國、公債消化へ協力の至情を示すこととした。その總額は二十萬圓餘に上つた。

貧民救濟のため粥廠を施設

北京の城內外に北京市社會局、基督敎、紅卍會、佛敎聯合會其他慈善團體の手で粥廠が出來上つた。これは嚴寒のため食物を奪はれ、寢所を失つた人々への救濟施設で現在北京市中には十四、五の粥廠があり、每日四、五萬人の老幼男女が押寄せて來る。昨年北支一帶を襲つた水害のため罹災民の數も夥しく、粥廠は例年に比し異常な賑ひを呈してゐる。瘡かきや鼻たれ小僧達が鼻をクンクン云はせながら竈の廻りを跳び廻つたり、垢だらけの女房達がバケツやブリキの空罐を持つてゾロゾロと集つて來る。またこの粥廠では粥や寢所を與へる外に、文字の書

ける者や、腕におぼえのある職人達にはそれ〴〵の向きに働き場所を紹介してゐる。

天津都市計畫 愈軌道に乘る

北京の西郊に建設されつゝある廣大な新市街に勝る人口三百萬人を收容する大天津の都市計畫が愈々軌道に乘つた。北支唯一の經濟都市、煤煙で大空も曇る工業都市天津の偉容が完成する日も遠くはない。天津は由來水陸交通の要衝、北支第一の貿易港であつて、事變以來北支開發の大據點としてその經濟的重要性を增し、今夏水災によつて致命的な大打擊を受けたにもかゝはらず、軍民一致の努力の結果已に、水災前の殷盛を取戻し、邦人の急激な增加とともに未曾有の發展を示してゐる。この計畫は天津特別市を中心とする塘沽に至る白河沿岸一帶の地域を包含する尨大なもので、建築資材拂底の聲もよそに順調に進捗しつゝある。尙この工事進捗につれて、工場敷地、住宅地の買收の申込が殺到し工程局はその前景氣に驚いてゐる。

民船にかはつて 橇が盛に活躍

昭和十四年五月本格的に機構整備を遂げた北支の內河航運は北支地區南方を除いて結氷期に入り、舊臘初旬、華北交通水運部の南運河、薊運河、子牙河は定期旅客運輸を中止し、大淸河民船團も第二十三次の天津歸航を俟つて幕をとぢた。かくて北支北方地區の都市と村落を繫ぐ各河川における水上運輸は多眠期に入つた譯で、關係機關と業界は整備と建設と明年度企畫の確立に努めてゐるが、しかし解氷期まで內河が何等物資輸送にタツチせぬものではなく、河川の全面的凍結を俟つて氷上運輸が華やかに展開されてゐる。

氷上運輸は半迆乃至は一迆の橇による物資輸送で、薊運河を始め各河川とも治安確立、經濟建設の好條件に惠まれて活潑な動きを示してゐる。橇の現在活躍量は三千臺から五千臺と豫想せられ、異常な活況を示してゐる。橇輸送によつて民船とは格段の輸送のスピード化の出來ることは勿論である。輸送料金は大體、自動車料金の三分の一、民船の二倍となつてゐる。

山西省南部地方の 「白色の寶城」開發

山西省は各種礦物の埋藏量が豐富で、石炭は支那のペンシルバニヤと稱せられるだけに殆ど無盡藏、鐵も亦その產地廣く略〻二十縣に及ぶ。また古來鹽產が盛んで就中本省の南部、「白色の寶城」と呼ばれる解州の東約二支里に位する運城の鹽池が著名である。最近、この大鹽池を擁してゐる山西鹽務管理局運城分局では、いよ〳〵今年度から製鹽の積極的增產計畫を樹立した。その目標は、先づ事變前の年產六萬トン突破を第一段階としてゐる。それがために現在の坐高四十三を一躍七十程度に增加すること、並に晉南地區のみならず山東、河南方面より鹽坐專用の苦力約五千名を募集して鹽池開發の新陣容が整へられた。この運城鹽池の增產プランは晉南の經濟開發に輝ける第一鞭をつけるものとして意義があり、そしてまたこの鹽池の製鹽は極めて簡單であつて、鹽水を鹽田に移しこれを數日間曬す時は、表面に結晶の部分を生ずるから、下部の水を流し結晶の鹽分を集めるといふ製法であるので、增產プランの實現は比較的容易に、且つその將來が大いに期待出來るわけである。

北京、青島間を 十三時半で走破

華北交通會社濟南鐵路局長平田驥一郎氏は十四年十二月中旬の在青島記者團との會見で華北路線スピード化を中心に大要次のやうに語つた。

華北交通管內の鐵道は先般の時間改正(「北支」十二月號傳書鳩參照)以來非常に狀態もよく治安も警備隊や現業員の苦心で殆ど心配なく列車は正確に發着してゐる。膠濟鐵路の狀況は北支で第一等で、輸送能力も現在張店、濟南間の軌道、橋梁を交換し各驛の設備などを改善すれば單線のまゝでも六百トンくらゐの輸送力を發揮出來、青島、濟南間四百キロの六時間連絡、北京、青島間の約八百キロを滿鐵のハト級列車で十三時間半で走破することも可能で着々その準備を進めてゐるので、二年後には日本、北京間の最短幹線ルートとして展望車を備へた素晴らしい國際列車が實現する筈である。

これがためには、必然的に門司、青島間の航路改善が行はれなければならず、青島港の重要性もます〳〵加はることとなるであらう。膠濟鐵路の寢臺車連絡はかねての懸案でありながら車輛不足のため遲延してゐるが、來春までには連絡するつもりである。連雲港の第二埠頭は華北交通で經營することになり、現在は主として石炭の積出しに使用されてゐるが、將來は大規模の築港が行はれなければなるまい。



八日（舊正月一日）

▽**東嶽廟開廟**・朝陽門外にあり、元朝初詣での人波に埋まる。祀神は泰山の神。またこゝの七十二司の神、月下老人、娘々の神は有名である。

▽**白雲觀開廟**・西便門外にあり、開廟十九日間。特に八日（舊）は順星日、十八日は神仙大會、十九日は燕九節と云つて格別の賑ひを呈する。

▽**大鐘寺開廟**・西直門外にあり、開廟十五日間。境內に高樓あり大鐘がかゝつてゐる。その撞木の下の銅鑼に錢を投げ、當つたら運がよい。

▽**鐵塔寺開廟**・東直門外にあり、開廟一日。げてものの市が立つ。

▽その他、東便門外の三忠祠、東四牌樓の東の三官廟・北新橋路北の精忠廟など夫々一日開廟になる。尙驛前正陽門の下袖にある關帝廟は早朝

▽**琉璃廠の初市**・和平門外南柳巷にあり、火神廟の開廟を兼ねて素晴らしい骨董書畫寶石等の市が立つ。期日は十五日間、驚くべき殷盛さだ。

九日（舊正月二日）

▽**財神廟開廟**・廣安門外四支里にあり、開廟一日。金儲けの神樣を祀つてあるので廟は小さいが大變な參詣者が詰寄せる。

十三日（舊正月十三日）

▽**城隍廟火判**・後門外にあり、この日より四日間火判を焚く。火判は火の判官であるが、こゝのは鐘馗の形になつてゐる。

二十二日（舊正月十五日）

▽**廟璃廠初市**・大鐘寺廟會最終日。この夜は元宵節（雜事の項參照）。

二十六日（舊正月十九日）

▽**白雲觀廟會最終日**

※　　※

（雜　事）

▽**接玉皇**・二月二日（舊臘月二十五日）先の竈祭りに竈の神が昇天して奏上したので此日は天帝が下界して一年の善惡を判ずると云はれ、女子供の口喧嘩など愼んで待つ。竈祭り以後は愈々正月準備が始まるので、街頭は飾物、諸雜貨を賣る所謂歲の市で賑ひ出す。今年七日は大

除夕と云つて夕方から御馳走して知友を相招く。卽ち別歲、又は辭歲の禮である。

▽**大晦日**・一般に骨牌、麻雀などして夜明しする、これを守歲と云ふ。この夜迎竈君を行ふ。これは二十三日に昇天した竈神を迎へるのであ る。尙家の內外の飾付は二十三日から二十九、三十日迄に濟ます。

▽**元日**・さて夜半を過ぎて元旦になると一家の守護神が天上から降臨なさると云ふので香を焚き赤蠟燭をともして迎へる、これを接神と云ふ。これが濟んだら開けておいた門扉を閉し、同時に爆竹を鳴らす。さうして愈々正月氣分になるのであるが、迎年の儀式としてはまづ天地四方を拜し、財神を拜し、門神を祀り、祖先を祀り、父母に拜する。この時幼少の者から順次長上に祝辭を述べる。さて一家團欒して飮み且食ふのであるが、正月五日間は炊事を禁ずるので年末に作り蓄めておいた餃子（肉饅頭）や年糕（日本の鏡餠に當るか）など食べる。家庭內の儀式が濟むと先輩長上、親戚知友の家々に年賀廻りをする。各家庭では年賀客のために糖茶と云つて簡單な御馳走を用意しておく。

うちに財神を祀る。この朝俗に元寶湯と云つて餛飩（所謂ワンタン）を食ふ、これは金儲の緣起をかつぐのである。

▽**顯星日**・八日（新曆二月十五日）星祭りでこの日初更に祭壇を設け、供物して中庭に燈花をともす。

▽**燈節**・十三日（新曆二月二十日）から十七日迄を燈節と云つて各商店寺廟では飾燈籠を灯し、民家でも祭壇を設け、又いろ〳〵と遊樂する。

×　　×

昭和十五年一月十五日印刷納本
昭和十五年二月一日發行

二月號
（每月一回一日發行）

編輯者　北京・華北交通株式會社資業局資料課　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社　君島潔
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替東京六四二二三番
電話九段(33)一四一五番
三三四四番

一冊定價　三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢

廣告取扱　大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所　一新社
電話土佐堀九三九

大川周明著

日本二千六百年史

★第一書房★

戰時體制版

四六判四〇〇頁

定價七十八錢

文學博士 西村眞次

私は息もつかずに讀了した。叙述が簡潔で、歴史を容易にしたことは本書の傑出した一特長であらう。

文學博士 後藤末雄

これは國家の現在を觀て、その前途を憂へる知識人が公憤と熱誠にかられて筆を執る師のごとき姿である。

杉山平助

熱的に歴史の核心に飛び込んで、其髄を剔り出さねばやまないやうな氣魄をもつて書き貫かれたものだ。

阿部知二

一つの信念に依て方向を與へられ日本人の覺者といふことよつて書かれ、其の行文は熱情に彩られてゐる。

本多顯彰

日本國民の内に潜む偉大な可能性を知らしめることによつて、我々現代日本國民に強い自信を抱かしめる。

松岡讓

いい本が出た。天衣無縫ともいふべき存在の書だ。私は目の「預言」より一冊の本當が有難い氣がする。

津久井龍雄

近來その著者と著述と本書の如く適切に呼應せる例は稀だ。眞の日本精神が何であるかを知るための書だ。

醫學博士 尾佐竹猛

博士獨特の主張の下にたゆまざる筆を以て書かれたもの。冗長に流れず、簡略に失せず、要領を得てゐる。

陶山務

私は此書は日本の、特に青年が必讀すべき現代の書であると信じてゐる。副讀本として採用さるべきだ。

第一書房新刊

東京市麹町區三番町・振替東京六四二二三

街から風車場へ

マルグリット・オオドウウ 堀口大學譯

氣高きことと星のごとく非凡なにも學ぶべき女性の魂が綴る人生の行情詩!! 佛文界の至寶が新らたにおくるマルグリット・オオドウウの不朽の名作!!

新四六判三八六頁 定價一圓三十錢

人間の問題

同志社大學教授 濱田與助著

人間とは何であるか? この永劫の課題に答へて現代人の要求に沿ふて、平易明快!! 更に現代が要求する新しい哲學的人間觀を確立せる劃期的名著!!

四六判二四九頁 定價一圓二十錢

哲學的世界觀

大江精志郎著

現代の病弊を癒やす哲學的世界觀の確立!! 明徹なる批判によつて現代を展望し世界の動きの根本的意味を把握せんとする!! 溌剌たる現世界觀の基礎哲學!!

四六判三九一頁 定價一圓八十錢

英國を視る

東京商大教授 松浦嘉一著

英國それは現世界の大きな疑問符であり興味の的である!! 世界の關心を集めつつあるその目的が臨に始める。ものは何であるか? 英國を視んとすれば、本書を繙け!!

四六判三三五頁 定價一圓三十錢

禪の鑑賞

早稲田大學教授 伊藤康安著

眞摯なる學徒であり禪の新解釋者として定評ある著者が禪の現代的意義を明らかにす!! 新鮮にして妙味!! 一讀禪の妙味が理解出來る解説と鑑賞!!

四六判三六六頁 定價一圓三十錢

柿丸と梨丸

吉田絃二郎著 童話選集

これは「愛の童話」であり、新しい「愛の學校」である!! 幼い魂におくる美しい心の糧!! 希望と夢の國の物語!! 歴史、傳説、海外名作に取材せる童話集!!

四六判四三二頁 定價 八十五錢

第一書房豫約

東京市麴町區三番町　振替東京六四二二三

世界大思想家選集

十二卷

思想の大金字塔!!　新しき世紀の決定的指標!!

內容見本進呈

監修　桑木嚴翼　得能文

プラトン篇　岡田正三
アリストテレス篇　出隆
アウグスティヌス篇　佐野勝也
ルッタア篇　淺地昇
デカルト篇　川田熊太郎
スピノザ篇　齋藤晌
パスカル篇　後藤末雄
カント篇　大江精志郎
フィヒテ篇　陶山務
ヘエゲル篇　三枝博音
シュライエルマッハア篇　大島豐
ベルグソン篇　吉岡修一郎

二月末日締切

毎月發賣　一円八十錢　申込金　五十錢

第一回配本　パスカル篇

本書はパスカルの全著作を一貫する金鑛脈であり科學者にして敬虔な基督教徒たるパスカルの思想と生活が生んだ黃金の果實に外ならない。

實物書店にあり

第一書房豫

東京市麴町區三番町　振替東京六四

澤柳政太郎選集

全六卷

深玄宏大なる教學の寶庫!!　日本文化の聖典!!

內容見本進

監修　小西重　長田
編纂者　赤井米　三浦藤　澤柳禮

教師及び校長論
實際的教育學
我が國の教育
退耕錄・隨感隨想

二月末日

毎月發賣　一円五十錢　申込金　五十錢

第一回配本　東亞の問題・歐米の教育

實物書店

Munaval
-NISSEN-

ムナバール「日染」



ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して強力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。

【特徴】

一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。
一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。
一、品質純良にして約二六%の硫黄を含有す。

【適應症】

疥癬・頑癬・湿疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性皮膚諸疾患。

【包裝】

一〇瓦（瓶入）
二五瓦（〃）
一〇〇瓦（〃）
五〇〇瓦（罐入）
一〇〇〇瓦（〃）

NISSEN

製造元　日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町

發賣元　株式會社稻畑商店
大阪市南區順慶町二丁目



四年七月四日第三種郵便物認可

定價 三十錢